

授業科目名		担当講師名		対象学年
人間の理解 I		福崎 伸吾		1 年次
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	実務経験
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	有 ・ 無
授業のキーワード	人間の尊厳・尊厳の保持・自立支援			
授業の目標及び期待される学習効果	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を理解するとともに、介護における倫理的課題についての基礎を養う学習とする。			
授業の概要	第 1 章 人間の尊厳と自立 第 2 章 介護における尊厳の保持・自立支援 第 3 章 人間関係とコミュニケーション 人間の理解と尊厳の考え方、自己理解と他者理解、自己覚知、生活を通じた尊厳と自立の理解、尊厳と自立をめぐる人間の歴史、尊厳と自立にかかわる実情と課題、介護における尊厳の保持・自立支援に向けての考え方の習得。			
履修上の要件				
テキスト、教材、参考書	教科書「人間の理解」			
使用機器等				
成績評価の方法	筆記試験			
備考				

		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅴ 小児		池田 尚弘		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(1 0)	2 年生教室	前期	木曜日	4 限目
授業のキーワード	発達、療育				
授業の目標及び期待される学習効果	主な小児疾患の病態、治療、検査について理解する。				
授業の概要	1. 主な小児の疾患 1) 小児科総論 2) 免疫・アレルギー疾患 3) 呼吸器疾患 4) 循環器疾患 5) 腎・泌尿器疾患 6) 感染症・予防接種 7) 先天異常 8) 新生児 9) 悪性新生物 10) 神経疾患 11) 運動器疾患 12) 虐待				
履修上の要件	小児看護学Ⅰが終了している				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験 母性、精神とあわせて疾病と治療Ⅴの単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅴ 母性				2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	2 年生教室	前期	水曜日	4 限目
授業のキーワード	妊娠・分娩・新生児・産褥の生理、ハイリスク妊産褥婦				
授業の目標及び期待される学習効果	妊娠・分娩・新生児・産褥の生理的变化を理解する。 妊娠・分娩・新生児・産褥期に起こった病的状態と看護について理解する。				
授業の概要	・ 妊娠期の身体的特性 1、妊娠の生理（妊娠とは、成立、胎盤の形成） 2、胎児の発育とその生理 3、母体の生理的变化 ・ 妊娠の異常と看護 1、ハイリスク妊娠 2、妊娠期の感染症 3、妊娠疾患（血液型不適合妊娠、多胎妊娠、妊娠期間異常） ・ 分娩の異常 - 産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常、付属物の異常 - 分娩時の損傷、分娩時異常出血、産科処置と診断 ・ 新生児の生理 1、新生児とは、 2、新生児の形態・機能 ・ 新生児のアセスメント 1、新生児の診断（ハイリスク児の評価・要因） ・ 産褥経過 - 産褥期の身体的変化 - 産褥の異常（子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害）				
履修上の要件	解剖生理学（女性生殖器と発生学）・母性看護学Ⅰは、終了している。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 病気が見える 産科第3版 メディックメディア				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	終講試験 小児、精神とあわせて疾病と治療Ⅴの単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅴ 精神		難波 理志		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	2 年生教室	後期	火曜日	3 限目
授業のキーワード	疾患／疾患の分類／症状／治療				
授業の目標及び期待される学習効果	精神疾患、症状の特徴および治療法を理解する。				
授業の概要	1, 精神障害の医学モデル 2, 疾患の分類 ① 外因性精神病・心因性精神病・内因性精神病 ② 国際疾病分類 3, 主な精神疾患 ① アルツハイマー病／脳血管性認知症／ピック病 ② 内分泌性精神症候群 ③ 産科と精神病 (マタニティブルー) ④ アルコール依存／コルサコフ精神病／覚醒剤中毒 ⑤ てんかん ⑥ 統合失調症 歴史／ブロイラー、シュナイダー・クロウの主要症状／病型と症状／経過と予後／治療 ⑦ 躁うつ病 ⑧ 神経症／心身症と神経症の違い／心因反応／ストレス関連障害 ⑨ 睡眠障害 4, 精神症状と状態像のとらえ方 ① アンビバレンツ ② 妄想／思考の流れ方の異常／自我意識障害 ③ 昏迷／せん妄／健忘 5, おもな精神科治療 ① 薬物療法 抗精神病薬／デポ剤／錐体外路副作用／抗不安薬／プラセボ効果／電気ショック療法 ② 精神療法 精神分析療法／力動的精神療法／森田療法／内観療法 ③ 行動療法・活動療法 認知療法／SST／作業療法				
履修上の要件					
テキスト・教材・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎				医学書院
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験 母性、小児とあわせて疾病と治療Ⅴの単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論Ⅰ 臨床薬理（１）		岡村 芳和		１年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義	（１５）	教室	後期	水曜日	３限目
授業のキーワード	誤薬、主作用、副作用、治療				
授業の目標及び期待される学習効果	薬理学の基礎的知識を学ぶ。 臨床で使われている薬剤について理解する。				
授業の概要	１，薬物治療の目指すもの ２，薬はどのように作用するのか ３，薬はどのように体内をめぐっていくのか 薬効に影響する因子 ４，薬物中毒はなぜおこるのか 薬の管理と新薬の誕生 ５，感染症治療に関する基礎 抗菌薬名論 ６，抗がん薬について 作用各論 ７，免疫治療薬について、まとめ ８，終講試験（５０分）				
履修上の要件	基礎分野「生物学」 「生化学、解剖生理学」履修中				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 今日の治療薬 医学書院 総合医学社				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験 臨床薬理（２）とあわせて臨床薬理の単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論Ⅰ 臨床薬理（２）		久保 俊一		1 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義	（１５）	教 室	後 期	金曜日	2 限目
授業のキーワード	誤薬、主作用、副作用、治療				
授業の目標及び期待される学習効果	薬理学の基礎的知識を学ぶ。 臨床で使われている薬剤について理解し、医療安全について考える機会とする。 安全な与薬のための基本を理解する。				
授業の概要	9，神経による情報伝達、自律神経系、交感神経作動薬 1 0，抗アドレナリン作動薬、筋弛緩薬、麻酔薬、副交感神経作用薬 中枢神経薬（脳の構造） 1 1，中枢神経系の機能と伝達物質、催眠薬、抗不安薬、ニトログリセリン 1 2，麻酔性鎮痛薬、利尿薬 1 3，高脂血症薬、白血病、貧血 1 4，抗血液凝固薬、血液悪性腫瘍治療薬、血栓溶解薬、抗血小板薬、止血薬、ノロウイルス 1 5，糖尿病薬、甲状腺・下垂体ホルモン、骨粗鬆症薬、ビタミン 1 6，医療事故防止のための基礎知識 規格と注射薬 類似の輸液、注射薬 看護業務に必要な計算 誤薬の危険（キシロカイン、インシュリン、カリウム製剤、カテコールアミン） 1 7，終講試験（５０分）				
履修上の要件	基礎分野「生物学」 「生化学、解剖生理学」履修中				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 今日の治療薬 医療安全ワークブック			医学書院 総合医学社 医学書院	
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験 臨床薬理（１）とあわせて臨床薬理の単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論Ⅱ (栄養学)		向井 祐美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室 調理室	前・後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	栄養、代謝、健康、成長、食事療法				
授業の目標及び 期待される学習効果	食物が人体に及ぼす影響を理解し、健康の保持・増進または疾病の回復やコントロールのための基礎知識を学ぶ。				
授業の概要	1. 人間栄養学と看護 1) 栄養を学ぶということ 2) 保健・医療における栄養学 3) 看護と栄養 2. 栄養素の種類とはたらき 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水 3. 食物の消化と栄養素の吸収、代謝 4. エネルギー代謝 5. ライフステージと栄養 6. 臨床栄養 病院食、疾患、症状別食事療法 7. 調理演習 糖尿病治療食の調理と試食				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎 栄養学 糖尿病食事療法のための食品交換表			医学書院 文光堂	
使用機器等	調理演習用具				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論Ⅲ 麻酔、手術・ME		大木 浩		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	2 年生教室	前期	木曜日	1 限目
授業のキーワード	生体反応、生命、自然治癒力				
授業の目標及び 期待される学習効果	麻酔及び手術の侵襲について理解する。 ME 機器の特徴について理解する。				
授業の概要	臨床外科看護総論 第 1 章 外科医療の基礎 B 手術侵襲と生体の反応 ・侵襲に対する生体反応 ・サイトカインによる生体調節機構 ・手術侵襲の評価 第 2 章 外科治療を支える分野 A 麻酔法 ・麻酔の種類 ・術前・中・後の管理 ・全身麻酔、局所麻酔 B 呼吸管理 ・酸素療法 ・機械的人工換気 C 体液・栄養管理 D 輸血療法 E 緩和医療 臨床看護総論 付章 医療機器の原理と実際 A 医療機器を安全に使うために B 測定用医療機器の原理と実際 C 治療用医療機器の原理と実際 D 医療機器使用時の看護				
履修上の要件	総合医療論 病気とメカニズム				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護学総論 医学書院				
使用機器等	喉頭鏡、気道モデル、蘇生人形				
成績評価の方法	筆記試験 救急、放射線とあわせて治療論Ⅲの単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論Ⅲ 救急		原 純		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(1 0)	2 年生教室	前期	木曜日	1 限目
授業のキーワード	トリアージ、生命、チーム医療				
授業の目標及び期待される学習効果	救急医療・看護の特徴を理解する。				
授業の概要	第 1 章 B 救急医療体制 C 救急看護の場 ①プレホスピタルケアと地域医療 ②インホスピタル ③国内外の災害被災地 第 3 章 A 初期・二次救急における対応 B 三次救急医療における対応 C 院内急変時における対応 F 災害時における対応 第 4 章 救急患者の観察とアセスメント 第 5 章 主要病態に対する救急処置と看護 A 心肺停止状態への対応 B L S、A C L S (演習) B 症状、病態別初期対応				
履修上の要件	総合医療論 病気とメカニズム				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験 麻酔・手術・ME、放射線とあわせて治療論Ⅲの単位とする。				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論Ⅲ 放射線				2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	教室	前期		
授業のキーワード	インフォームドコンセント				
授業の目標及び期待される学習効果	放射線診療の動向、放射線による検査・治療を学び、検査・治療における看護師の役割を知り、看護へといかすことができる。				
授業の概要	序章 放射線医学の成り立ちと意義 A 医療における放射線医学の役割 B 放射線科は何をする診療科か 第1部 画像診断 第1章 画像診断と看護 ・安全性の確保 第2章 X線診断 第3章 CT 第4章 MRI 第6章 核医学検査 第2部 放射線治療 A 放射線治療の原理 B 放射線治療の基礎 C 正常組織の有害作用 D 治療線量・耐用線量と治療可能比 E 放射線治療の特徴と目的 F 照射法の種類 第3部 放射線防護 第11章 放射線による障害と防護				
履修上の要件	「総合医療論」「解剖生理学」「病気とメカニズム」は終了				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験 麻酔・手術 ME、救急とあわせて治療論Ⅲの単位とする。				
備考	「血管造影」は疾病と治療Ⅳ脳神経で行う 「超音波診断」は疾病と治療Ⅰ消化器で行う 各疾患の放射線治療は、疾病と治療の各論で行う				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
微生物と感染症		小林 徳龍		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教 室 化学実験室	前期・後期	不定期	集中講義
授業のキーワード	病原微生物、常在菌、感染症、感染予防、抗菌剤、消毒、滅菌、清潔 バイオハザード、バイオセーフティ、スタンダードプリコーション、など				
授業の目標及び 期待される学習効果	微生物の人体に及ぼす影響を理解し、免疫機構の重要性を学ぶ。 期待される効果として、微生物の特徴や感染についての基礎知識を身につけることによって、感染予防を意識した看護技術を修得する。				
授業の概要	第 1 部 微生物学の基礎 第1章 微生物と微生物学 第2章 細菌の性質 第3章 真菌の性質 第4章 原虫の性質 第5章 ウィルスの性質 第 2 部 感染とその防御 第6章 感染と感染症 第7章 感染に対する生体防御機構 第8章 感染源・感染経路からみた感染症 第9章 滅菌と消毒 第10章 感染症の検査と診断 第11章 感染症の治療 第12章 感染症の現状と対策 第 3 部 おもな病原微生物 第13章 病原細菌と細菌感染症 第14章 病原真菌と真菌感染症 第15章 病原原虫と原虫感染症 第16章 おもなウィルスとウィルス感染症				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎 微生物学 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	第 10 章感染症の診断『検査の実際』は、臨床検査の基礎で学ぶ。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床検査の基礎		根本 充弘		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	教室	後 期	水曜日	4 限目
授業のキーワード	検体検査 (尿・便、体液、血液、生化学、免疫、微生物、染色体、病理) 生体検査 (生理機能検査、画像検査、内視鏡検査)				
授業の目標及び 期待される学習効果	臨床検査における看護師の役割を理解する 期待される効果として、患者の病態や治療方針、治療効果、看護過程策定 に向けて臨床検査の意義や目的を理解し、検査データを解釈することができる				
授業の概要	第1章 臨床検査とその役割 第2章 臨床検査の流れと看護師の役割 第3章 一般検査 尿検査、便検査 第4章 血液検査 血球検査、出血凝固検査、溶血性貧血の検査、骨髄検査 第5章 化学検査 血清タンパク検査、血清酵素検査 糖代謝の検査、脂質代謝の検査、胆汁排泄関連物質の検査 腎機能検査、窒素化合物の検査、電解質の検査 血液ガス分析、鉄代謝の検査、銅代謝の検査 血中薬物濃度の検査 第6章 免疫・血清検査 炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫、免疫グロブリン アレルギー、輸血に関する検査、腫瘍マーカー 第8章 内分泌学的検査 下垂体前・後葉ホルモン、甲状腺ホルモン 副腎皮質・髄質ホルモン、性腺ホルモン 膵臓、消化管ホルモン 第9章 病理検査				
履修上の要件	基礎分野「生物学」 専門基礎分野「生化学、解剖生理学」履修中				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 別巻 臨床検査				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考	基礎看護学 診療の補助技術「検査」 第8章 微生物学検査 → 微生物学 第10章 I 生理機能検査 A 循環器 → 疾病と治療Ⅱ循環器 B 呼吸機能検査 → 疾病と治療Ⅰ呼吸器 C 神経機能検査 → 疾病と治療Ⅳ脳神経 Ⅱ画像検査 A 超音波検査 → 疾病と治療Ⅰ消化器				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
総合医療論		小川 信		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	教室	前期	金曜日	4 限目
授業のキーワード	倫理、インフォームドコンセント、QOL、情報開示、プライマリケア				
授業の目標及び期待される学習効果	人間をとりまく社会や環境の変化に伴う保健・医療・福祉の役割と仕組みを学び、社会に貢献する方向性、視点を理解する。				
授業の概要	1. 医療と看護の原点 ―病と癒し 1) 死とは、健康とは、病とは 2) 医療と宗教、サイエンス、アート 2. 医療の歩みと医療観の変遷 1) 我が国の医療の歴史 3. 私達の生活と健康 1) 救急医療、診療所と病院、医薬分業 2) 環境衛生、保健、福祉、行政 3) 疾病予防、高齢者医療、ノーマライゼーション、精神医療 4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線 1) 現代医学と先端医療技術の最前線 5. 現代医療の新たな課題 1) 死の判定―脳死 2) 医療不信、医療訴訟 3) インフォームドコンセント 4) 情報開示 6. 医療を見つめなおす新しい視点 1) 医療と倫理 7. 康概念の質的变化と保健・医療の新しい風潮 1) 日本型プライマリケア 2) 在宅ケア 3) 緩和ケアとホスピス 4) 情報技術革命と医療				
履修上の要件	特になし				
テキスト、教材、参考書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎 総合医療論				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
公衆衛生学		郡山 千早		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(15)	2 学年教室		集中講義	不定期
授業のキーワード	健康 予防 地域 法 社会				
授業の目標及び期待される学習効果	人間が健康な生活を維持、増進するための諸条件と社会における組織的な保健活動を理解する。				
授業の概要	1. 公衆衛生一般 ① タバコの害について ② それでもタバコを吸いますか 2. 医療保険と S A R S について 3. 第 4 章 公衆衛生と国際化 ① 新型インフルエンザについて 4. 第 5 章 地域保健 ① 結核の基礎知識 ② 結核患者について ③ 結核について 5. 第 6 章 母子保健 ① 健やか親子 2 1 ② 子育てと家族 6. 第 8 章 成人・老人保健 ① 老人保健法と介護保険法 ② 生活機能と保健活動 7. 第 9 章 精神保健 8. 第 10 章 難病保健 9. 第 11 章 生活環境 10. 第 12 章 産業保健 ① P O S について ② ノロウイルスについて 11. 疫学・衛生統計の意義や見方				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護関係法令		伊藤 周平		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (30)	2 学年教室	後期	集中講義	不定期
授業のキーワード	医療 法規				
授業の目標及び 期待される学習効果	人々の健康を守るための法規について学ぶ				
授業の概要	1. 法規の概念、衛生法規の意義、沿革 2. 医事法規（保健師助産師看護師法、医師法） 3. 薬事法規、保健衛生法規 4. 予防衛生法規、環境衛生法規、公害関係法規 5. 福祉関係法規Ⅰ（社会保険一般、医療保険、年金保険、労災保険） 6. 小テスト まとめ 7. 小テスト講評 まとめ 8. 福祉関係法規Ⅱ（年金、労災法、介護保険法） 9. 福祉関係法規Ⅲ（介護保険法、社会福祉法制度） 10. 福祉関係法規Ⅳ（生活保護法、児童福祉法） 11. 福祉関係法規Ⅴ（老人福祉法、障害者基本法ほか） 12. その他の関係法規（労働基準法ほか） 13. 課題レポート 14. 終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院 看護六法 新日本法規 雇用崩壊と社会保障 平凡社親書				
使用機器等	講義資料				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
社会福祉		田畑 洋一		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2(30)	視聴覚教室	前期～後期	集中講義	不定期
授業のキーワード	福祉法				
授業の目標及び期待される学習効果	社会福祉の概念を理解し医療、看護、福祉との関連性を学ぶ。				
授業の概要	1. 社会福祉の基本的性格 社会福祉の意味、定義、構造 2. 生活問題の展開と社会福祉の基本的動向 3. 社会福祉制度の特質と基盤の変容 4. 社会福祉法のしくみと種類 5. 社会福祉の組織と管理 6. 医療保険 7. 年金制度 8. 老人福祉法 9. 生活保護制度の目的、基本原理、4 原則、種類、現状と課題 10. 老人福祉 (小湊敬老感謝の集い) 11. 児童福祉法、行政機関と児童福祉施設 12. 社会福祉実践の特質 ①実践の展開過程 ②実践の検討課題 13. 社会福祉と医療の連携 ①連携の重要性 ②連携をめぐる課題 14. 母子福祉、母子保健 15. 障害者福祉 16. 終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門基礎 社会福祉				
使用機器等	パソコン、プロジェクター、DVD				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護学概論		大庭 梨香 ・ 平 玲子 長井 安代		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (4 5)	教室	前期～後期	不定期	不定期
授業のキーワード	看護、健康と看護、看護の対象、人間、環境、看護の機能と役割、看護過程、看護倫理、看護管理、医療安全、国際看護、災害看護				
授業の目標及び期待される学習効果	看護学を構成している要素としての看護の概念、人間、環境、看護について学び、各看護学に応用していける基礎的知識、態度を修得する。				
授業の概要	1. 看護の概念 1) 看護とは 2) 看護の目的 3) 看護の構成要素 2. 看護の対象 1) 人間とは 2) 人間を取り巻く環境 3. 健康と看護 1) 健康とは 2) 健康と看護 3) 保健医療と動向 4. 看護の軌跡 1) 看護の原点 2) 戦時、戦後、昭和初期、現在までの看護 3) 看護教育の変遷 5. 看護の機能と役割 1) 看護過程の概念 2) 看護活動 3) 看護倫理、生命倫理 6. 医療安全について 1) 医療事故の原因 2) 医療事故防止の考え方 7. 国際看護の概念 8. 災害看護の概念 9. 看護サービスの管理 1) マネジメントとは 2) 組織 3) 協働				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門 I 看護学概論 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版社 看護覚え書き 現代社 系統看護学講座 統合 医療安全 医学書院 系統看護学講座 統合 看護管理 医学書院				
使用機器等	パワーポイント				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護理論		大庭 梨香		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	健康／環境／人間／看護／看護観				
授業の目標及び期待される学習効果	1. 先人の看護理論について学び、看護に対する考え方を学ぶ。 2. 日々の看護実践は看護理論によって成り立ち、対象への援助に結びついていることが理解できる。				
授業の概要	1. 看護理論とは何か 2. 看護に理論を用いることの意義について 3. 看護理論を構成する4つの主要概念について ① 各概念に対する考え方 人間の概念：人間に対する考え方 健康の概念：健康に対する考え方 環境（社会）の概念：環境に対する考え方 看護の概念：看護に対する考え方 ② 主要概念間のつながりについて 4. 看護理論の種類について 5. パトリシア・ベナーの看護理論 6. 看護に用いられる各理論家における看護理論について (グループワーク)				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	看護学概論：医学書院 実践に生かす看護理論 19 サイオ出版				
使用機器等	パワーポイント				
成績評価の方法	筆記試験・レポート				
備考	※ヘンダーソンの理論については、看護概論・看護過程で学ぶ				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護研究の基礎		平 玲子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・ 情報処理室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	看護研究の考え方、研究のテーマの絞り込み、研究方法、研究計画書、数量データ処理の実際、研究論文としてのまとめ方				
授業の目標及び期待される学習効果	1) 研究としてのテーマの絞り込みができる。 2) 文献検索方法が理解できる。 3) 研究テーマに適した研究計画書が立案できる。 4) データ収集方法、分析方法を理解し実施できる。 5) 論文作成ができる。 6) 研究発表を行うことで効果的な発表方法、論文評価の視点を理解できる。 7) グループの一員としての役割、責任を果たすことができる。				
授業の概要	1. 看護研究の意義と方法について 1) 看護研究の考え方 2) 研究テーマの絞り込み 3) 研究の方法 4) 研究計画書の作成 5) 数量データ処理の実際 6) 研究論文としてのまとめ方 2. 看護研究の実際 (グループ演習) 1) 看護研究テーマの絞り込み 2) 看護研究計画書作成 3) データ収集・分析 4) 看護研究論文作成 5) 看護研究抄録の作成 6) 看護研究発表 スライド作成 7) 看護研究発表				
履修上の要件	1 年次：情報科学を履修、パソコン操作の基礎を学習していること。				
テキスト、教材、参考書	坂下 玲子・宮芝 智子・小野 博史：系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	出席状況、看護研究計画書、研究論文、発表態度 グループワークでの役割				
備考	アンケートを実施する場合は、事前に学校起案が必要になる。 (看護学科外・校外) 研究発表用に抄録集を作成する。 スライドを作成し、発表会で発表する。 研究テーマは学籍簿に記載する。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術Ⅰ コミュニケーション技術		脇田 真由美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(20)	教室・実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	看護における・コミュニケーション・インフォームドコンセント・看護師の役割・看護倫理				
授業の目標及び期待される学習効果	1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 2. 看護倫理について理解し看護者としての責任を自覚できる。				
授業の概要	1. コミュニケーションの基礎知識 2. 対人関係プロセスとしてのコミュニケーション 3. 看護におけるケアリングとコミュニケーション 4. コミュニケーションのプロセスに影響する要因 5. 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション 1) インフォームドコンセントと看護師の役割 6. 患者とのコミュニケーション 出会い 聴く 話す (演習) 7. 医療スタッフとのコミュニケーション (演習) 1) 報告 2) 交渉・調整・確認 8. 臨地実習における事例 ・ロールプレイング 患者・看護師関係 9. 看護倫理におけるコミュニケーション				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	基礎看護技術 メジカルフレンド社 患者―看護婦関係を学ぶロールプレイングを活用して 川野雅資監修 星和書店 看護学生のための心理学 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター、DVD				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	「リスクマネジメント」と併せて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術Ⅰ 医療安全		根本 洋子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	1 年生教室 看護実習室	前～後期	不定期	不定期
授業のキーワード	医療事故と看護事故、危険因子、ヒューマンエラー、ヒヤリハット				
授業の目標及び 期待される学習効果	1、医療事故の発生する要因を理解し、事故を回避するための基本的知識と技術を修得する 2、医療機関における組織的な安全管理体制への取り組みを学習する 3、看護職を選ぶことの重さと医療安全努力の責務を自覚する				
授業の概要	1、医療安全を学ぶことの大切さ 2、人はなぜ間違いをおかすのか「ヒューマンエラーについて」 事故がおこる原因 ヒューマンエラーと医療事故 医療事故の現状 3、医療事故と看護事故の定義 医療事故とは 医療過誤とは（過失による事故） 看護事故の構造 2 種 5 群 4、看護事故防止の考え方 間違いによる事故を防ぐ 3 ステップ 危険の予測(評価)に基づく事故防止 2 ステップ 5、診療の補助の事故と療養上の世話の事故 危険因子 環境の中の危険因子 医療設備・管理上の危険因子 患者側の危険因子 医療者側の危険因子 6、医療安全とコミュニケーション 事故防止のための医療者間のコミュニケーション 7、組織としての医療安全対策 組織的な取り組み 事故報告とヒヤリハット報告 8、危険を察知し感受性を高める 問題解決能力を養う 危険予知トレーニングの実際				
履修上の要件	看護学概論（看護倫理 医療安全） 共通基本技術Ⅰ コミュニケーション技術 心理学				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践[2] 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカルフレンド社 医療安全ワークブック第3版 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター、ビデオデッキ				
成績評価の方法	筆記試験 80% 課題レポート 20%				

備考	「コミュニケーション」と併せて1単位とする。				
授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術Ⅰ 観察記録報告・看護過程・問題解決技法		大庭 梨香・池田 恵子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	看護過程、アセスメント、看護問題、看護計画、看護理論、問題解決過程、POS・SAOP				
授業の目標及び期待される学習効果	看護に必要な観察、記録、報告技術について学ぶ。 問題解決過程(POS)について学ぶ。 看護過程の概念を学ぶ。				
授業の概要	観察、記録、報告 1. 看護における観察とは 2. 記録、報告の重要性 3. 記録、報告と法的責任 4. 看護記録の構成要素、記録の方法 POS、データベース、問題リスト、看護計画、経過記録(SOAP)、体温表、看護サマリー 5. 報告 看護過程 1. 看護過程とは 1) 看護過程と理論との関係 2) 看護過程の構成要素 2. アセスメント 1) 情報収集 ① 情報収集の枠組み(ヘンダーソンの14項目) ② 情報収集の技術 ③ 情報の種類(主観的・客観的情報) 3. 看護問題、看護診断 4. 計画立案 5. 実施 6. 評価				
履修上の要件	基礎看護技術Ⅰ 技術概論 看護学概論、基礎看護技術コミュニケーション				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 新体系看護学 18 基礎看護学③ 基礎看護技術 メジカルフレンド社 ヘンダーソンの看護論の実際 看護の基本となるもの 基礎看護学実習要項				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				

備考	
----	--

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術Ⅱ 指導技術		里島 なおみ		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(15)	1 年生	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	個人指導、集団指導、在宅指導				
授業の目標及び 期待される学習効果	看護の機能における保健指導の必要性と指導方法について学ぶ。				
授業の概要	1. 患者指導と援助技術 1) 看護における指導の目的と意義 2) 指導の対象者と場、指導のプロセス 3) 指導技術の基本となるもの 看護における学習理論 対象者の学習ニーズへの対応 学習支援を高めるための方法 4) 指導の進め方 指導内容と指導の方法の決定 指導方法 指導教材の活用 指導におけるアプローチの方法 5) 指導計画の立案 6) 指導技術の実際（演習）と評価				
履修上の要件	看護学概論を履修していること。対象者の発達段階を理解していること。教育学、共通基本技術Ⅰ看護過程を履修していること。				
テキスト、教材、 参考書	新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅰ メジカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 ビデオ				
使用機器等	ビデオ 演習				

成績評価の方法	筆記試験（80 点）、演習（20 点）で評価する。
備考	「感染防止」「看護過程」と併せて 1 単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術Ⅱ 感染防止の技術		根本 洋子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	1 年生教室 看護実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	感染成立の条件、スタンダードプリコーション、感染経路、無菌操作、医療廃棄物				
授業の目標及び 期待される学習効果	1、感染成立の条件および院内感染の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する 2、手指衛生・個人防護具の着脱・無菌操作について学び、正しく実践できる				
授業の概要	1、感染の定義と発症、感染の成立課程 2、標準予防策の基礎知識と対策の実際 標準予防策（スタンダードプリコーション）の定義 手指消毒法・個人防護具の着脱法（※技術試験） 3、感染経路別予防策 伝播と感染経路 接触感染予防策 飛沫感染予防策 咳エチケット/サージカルマスク 空気感染予防策 N95 マスク 4、洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 滅菌物の管理 無菌操作（※技術試験） 5、感染性廃棄物の取扱い 廃棄物の性状に応じたバイオハザードマーク 6、カテーテル関連血流感染対策 病原体の侵入経路 7、針刺し防止策 針刺し防止の基礎知識、針刺し後の対応				
履修上の要件	微生物学と感染症 看護学概論、共通基本技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ（日常生活援助・診療の補助技術）				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 医学書院 新体系看護学全書 11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メガカルフレット社 看護技術プラクティス 第3版 学研				
使用機器等	各種実習物品、パソコン、プロジェクター、ビデオ				
成績評価の方法	課題レポート 20% 筆記試験 80% 実技試験				
備考	「指導技術」「ヘンダーソンの看護過程」と併せて 1 単位とする				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術Ⅱ 看護過程		大庭 梨香		1 学年	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(20)	教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	ヘンダーソンの看護論 基本的看護の構成要素				
授業の目標及び 期待される学習効果	看護過程の概念がわかり、ヘンダーソンの看護理論を活用して看護過程の方法が理解できる。				
授業の概要	1) ヘンダーソンの看護理論「看護の基本となるもの」解説 事前学習 2) 事例提示・学習課題提示 ノート テーキングペア 3) 情報収集の方法・整理 (事前学習) 4) 情報の読み取り (アセスメント) 検討, 記録用紙に記入 (事前学習) 5) 関連図、アセスメント 検討 (事前学習) 6) 看護計画の立案 ノート テーキング・ペア (事前学習) 7) 個人ワークで看護過程展開 (記録物提出) 8) 評価				
履修上の要件	事前学習レポートの提出期限を守り、積極的に授業に臨むこと。				
テキスト、教材、 参考書	ヘンダーソンの看護論の実践 ヘンダーソンの看護論の実践にもとづく看護問題リスト 基礎看護学実習要項 疾患別看護過程の展開 系統看護学講座 成人看護学 今日の治療薬 わかる検査値とケアのポイント				
使用機器等	パワーポイント・付箋紙・模造紙・基礎看護学実習記録用紙				

成績評価の方法	レポート、提出物
備考	「感染防止」「指導技術」と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 日常生活援助技術・環境		糸 ふじ代		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(15)	教室 実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	生活環境、病床整備、ベッドメイキング、環境調整、安全、安楽、恒常性				
授業の目標及び 期待される学習効果	環境の意義と看護師の役割を学ぶ。 1) 病人の生活環境とその設備について学ぶ。 2) 病床整備について学び、安全・安楽な環境を整えることができる。 3) クローズドベッドが作成できる。 4) 安全・安楽を考慮しながら臥床患者のベッドメイキングができる。				
授業の概要	1. 環境とは・・・環境の概念や構成要素について理解する 環境の概念、外部環境・内部環境、室内環境 2. 病床環境とは・・・ 病床環境(温度・湿度・気流・採光・臭気・プライバシー) 3. 病床の環境整備・・・病院・施設内の様々な設備、病床環境、寝具、について理解する望ましい病床環境を考え、整えることができる 4. 病床の環境整備演習 モーニングケア ベッドメイキング(クローズドベッドの作成) 5. 臥床患者のシーツ交換・・・演習				
履修上の要件	1年次前期であるため、解剖的知識が乏しい。その中で人間の体や生活、そして看護において興味を持つことが重要である。基礎看護技術においては、活動と休息との関連づけが望ましい。				
テキスト、教材、 参考書	基礎看護技術 メヂカルフレンド社 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研 ナイチンゲール「看護覚え書き」 現代社 〈参考資料及び文献〉 国家試験過去問題				
使用機器等	各種実習物品				

成績評価の方法	筆記試験 実技試験
備考	「活動と休息」「食事」「排泄」「清潔」と併せて2単位とする。

授業科目名	担当講師名			対象学年	
基礎看護学 日常生活援助技術・活動と休息	長井 安代			1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(15)	1 年生教室 看護実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	運動、ボディメカニクス、安楽な体位、休息、睡眠				
授業の目標及び 期待される学習効果	人間にとっての活動と休息の意義が理解できる。 安全・安楽・ボディメカニクスを活用した、体位変換、移動の技術ができる。				
授業の概要	1. 活動の意義 健康生活における活動 人間の姿勢 褥瘡の好発部位 安楽な体位 良肢位の保持 ボディメカニクスの活用 2. 体位変換、移乗、移送の実際 演習 体位変換 水平移動、仰臥位から側臥位 車椅子への移乗、移送、ストレッチャー移送 安全で安楽な援助について、体験を通して考える 3. 休息、睡眠への援助 休息の意義 レム睡眠、ノンレム睡眠、 睡眠障害のアセスメント、睡眠・休息の援助の実施方法 4. 実技テスト「体位変換・車椅子移乗・車椅子移送」				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研				
使用機器等	・実習室：車椅子、ストレッチャー、ベッド、安楽枕				
成績評価の方法	筆記試験 実技試験				

備考	「環境」「食事」「排泄」「清潔」と併せて2単位とする。
----	-----------------------------

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 日常生活援助技術・食事		糸 ふじ代		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(20)	1 年生教室 看護実習室	前～後期	不定期	不定期
授業のキーワード	基本的欲求、食欲、QOL、安全、嚥下のメカニズム				
授業の目標及び 期待される学習効果	健康生活における食事の意義を理解し、食事制限や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解するとともに、それぞれの対象に適した食事援助の方法について学ぶ。				
授業の概要	1. 健康における食事の意義 2. 食事に関する身体の機能 食欲、咀嚼、嚥下、姿勢について 3. 食事の援助に関する基礎知識 1) 栄養状態のアセスメント (BMI、検査データ) 2) 水分出納のバランスのアセスメント 3) 食欲、摂食能力のアセスメント 4) 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント 4. 食事介助演習～患者・看護師体験：グループワーク発表 (仰臥位、側臥位、ファール位、車いす、視力障害、片麻痺など) (一口量、口中を潤す必要性、安楽な姿勢、スプーン・吸飲みの使い方) 5. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経鼻経管栄養法の適応・手順・注意点 2) 経管(経腸)栄養法、経静脈栄養法・・・VIDEO 学習 6. 経鼻経管栄養法 1) 経鼻胃チューブの挿入 (デモンストレーション：モデル人形) 2) 経管栄養剤の注入 ※演習				
履修上の要件	解剖生理学：「消化器」の構造と機能について履修していることが望ましい				
テキスト、教材、 参考書	基礎看護技術 メヂカルフレンド社 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研 DVD				
使用機器等	各種実習物品、食材（ご飯、みそ汁、お茶、ゼリー）				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	「環境」「活動と休息」「排泄」「清潔と衣生活」と併せて2単位とする。				

授業科目名	担当講師名		対象学年		
基礎看護学 日常生活援助技術・排泄	根本 洋子		1 年次		
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(15)	教室 実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	生命の維持、排泄、清潔、安全、安楽、感染予防、プライバシー				
授業の目標及び 期待される学習効果	排泄のメカニズムや排泄リズム、排泄物について理解できる。 対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得できる。				
授業の概要	1. 排泄援助の基礎知識 ① 排泄の意義 ② 排泄の援助において重要なこと ③ 看護師が行う排泄の援助 ④ 排泄に関するアセスメント 2. 排泄援助の基本的姿勢 ① 環境を整える ② スムーズに排泄できるように援助する ③ 清潔に留意する 3. 排泄用具を用いた排泄行動の援助 ① トイレの使用、誘導 ② 尿器、便器の使用（床上で尿器、便器を用いる方法） 4. 排泄時の清潔援助 ① 紙おむつの使用目的と方法（演習） 5. 排便障害時の援助 ① 排便を促す看護技術：腹部マッサージ、温罨法 ② グリセリン浣腸（演習） ③ 摘便（デモンストレーション） 6. 演習：床上排泄、グリセリン浣腸、おむつ交換など 7. 終講試験				
履修上の要件	解剖生理学、病理学、微生物、生化学、薬理学				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術 プラクティス 学研				
使用機器等	学生には資料プリント配布 各種実習物品				
成績評価の方法	筆記試験				

備考	実技試験不合格者は、再演を重ね全員合格となる 「活動と休息」「食事」「環境」「清潔」と併せて2単位とする。				
授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 日常生活援助技術・ 清潔、衣生活		里島 なおみ		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(25)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	皮膚の清潔／不快感と爽快感／羞恥心への配慮				
授業の目標及び 期待される学習効果	① 健康に障害を持ち、援助を必要とする対象への基礎的な清潔援助が理解できる。 ② 身体の清潔を保つ意義及び、適切な衣生活を整えることの意義が理解できる。 ③ 対象のニーズに応じた清潔行動、衣類選択・更衣の援助技術が習得できる。				
授業の概要	1. 人間にとっての清潔の意義と清潔のニーズ 1) 皮膚の構造と働き 2) 私たちの生活と清潔の意義 3) 健康に障害のある対象への清潔援助の意義 2. 人間にとっての衣服の意義 3. 清潔への援助方法 1) 清潔ニーズのアセスメント 2) 清潔援助の目的 3) 対象の状況に合わせた清潔ケアの準備 4) 生命の消耗を最小に援助する方法 4. 身体の清潔を保つ援助方法 1) 入浴の目的・留意点 2) 足浴の目的・留意点 3) 陰部洗浄の目的・留意点 5. 頭皮・頭髪への援助方法 1) 洗髪の目的・留意点 2) 洗髪に用いる物品の種類と目的 6. 演習：①全身清拭・寝衣交換 ②洗髪・陰部洗浄・足浴 7. 筆記試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研				
使用機器等					

成績評価の方法	筆記試験
備考	「活動と休息」「食事」「排泄」「環境」と併せて2単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 ヘルスアセスメント・バイタルサイン		里島 なおみ		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(2 2)	教室 実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	バイタルサイン、ヘルスアセスメント、体温、体温の測定、体温の異常、脈拍、脈拍の測定、脈拍の異常、血圧、血圧の測定、血圧の異常、呼吸、呼吸の測定、呼吸の異常、電法、氷枕、温枕				
授業の目標及び期待される学習効果	1. 生命徴候としての体温・脈拍・呼吸・血圧のしくみがわかる。 2. 体温・脈拍・呼吸・血圧に影響を及ぼす因子がわかる。 3. バイタルサインの測定が正しく行え、正常と異常の違いがわかる。				
授業の概要	1. バイタルサイン（生命徴候）とは 2. 体温 1) 代謝と体温、体熱放散、体温に影響を与える因子 2) 体温の異常 3) 体温の測定方法と体温測定器具の種類・取り扱い 3. 呼吸 1) 呼吸のしくみ、外呼吸・内呼吸、呼吸運動 2) 呼吸の異常 3) 呼吸の測定と観察 4) 聴診器の取り扱い 5) 動脈血酸素飽和度の測定（パルスオキシメーター） 4. 脈拍 1) 脈拍とは、脈拍に影響を与える因子 2) 脈拍の異常 3) 脈拍の測定部位と測定方法 5. 血圧 1) 血圧とは、最高血圧・最低血圧、血圧に影響を与える因子 2) 高血圧、低血圧の定義 3) 血圧測定の方法と留意点 4) 聴診器の取り扱い 6. 電法 1) 電法の目的、電法の種類、電法時の注意点 2) 湯たんぽの作成、氷枕の作成（演習） 7. 演習・実技試験：バイタルサインの測定と報告				
履修上の要件	基礎看護学概論において看護の対象について理解しておくことが望ましい 共通基本技術Ⅰコミュニケーションの知識を用いて演習に臨む。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 看護技術 プラクティス 学研				
使用機器等	バイタルサイン測定器具、電法用器具他各種実習物品				
成績評価の方法	筆記試験、				
備考	ヘルスアセスメントとあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 ヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメント		糸 ふじ代		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(23)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	身体査定 判断 アセスメント能力				
授業の目標及び 期待される学習効果	・対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる ・基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき正常な身体的状況を把握できる				
授業の概要	1. ヘルスアセスメントの意義と目的 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント ①問診の技術 ②健康歴聴取の目的③心理的側面のアセスメント ④ 社会的側面のアセスメント 3・フィジカルイグザミネーションに必要な技術 ① 視診 ②触診 ③聴診 ④打診 (心臓の大きさ・肝臓の大きさの推定) 4. 身体機能別のアセスメント ② 呼吸系 (視診・触診震盪音・聴診) ③ 循環系 (心音の聴取 I 音 II 音・中心静脈圧の推定・心不全の見方) ④ 消化系 (腸蠕動音の聴診・腹水の有無を見る) ⑤ 感覚系 (眼位・眼球運動・視野の異常の見方 聴力のスクリーニング (リンネテスト・ウエーバーテスト) 皮膚知覚 (痛覚・触覚・振動覚) ⑥ 運動系 (関節可動域測定 筋力測定 MMT 小脳機能評価 ⑦ 中枢神経系 (意識状態の測定 対光反射) 5. 校内演習 フィジカルイグザミネーション・アセスメントの実際				
履修上の要件	共通基本技術 I を履修していること				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門2 基礎看護技術 I 医学書院 フィジカルアセスメント ガイドブック 医学書院 フィジカルアセスメントワークブック 山内 豊明 医学書院				
使用機器等	看護実習室物品 看護実習シュミレータ (フィジコ・ラングー)				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	バイタルサインと併せて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 診療の補助技術・与薬		糸 ふじ代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(22)	教室、実習室	前 期	不定期	不定期
授業のキーワード	医療安全、誤薬、自然治癒力				
授業の目標及び期待される学習効果	与薬の援助技術の基本を学び、安全な与薬の方法を習得する。				
授業の概要	1. 与薬の意義と看護師の役割 1) 薬に関する法律 医師法、薬事法、保助看法、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法 2) 薬物の作用、吸収排泄経路 3) 医療事故の実際 4) 医療安全と与薬における医療事故 2. 与薬の種類、方法 1) 経口的与薬法 2) 注射法 3) 点眼、点鼻 4) 塗布、塗擦 5) 座薬 6) 注射法 3. 演習「与薬の方法、実際」 1) 経口的与薬：散剤 2) 注射法：皮下注射、筋肉内注射 3) 輸液の準備 4) 与薬に必要な計算の基礎				
履修上の要件	専門基礎分野治療論Ⅰにおいて、薬に関する基礎的知識を身に付けていること。 基礎看護技術安全安楽で無菌操作の技術を習得していること。				
テキスト、教材、参考書	基礎看護技術，医学書院 看護技術プラクティス、学研 医療安全ワークブック，医学書院				
使用機器等	1，パソコン、プロジェクター 2，ビデオ 3，看護実習室物品 模擬注射モデル（皮下注射・筋肉注射）				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	検査と併せて1単位とする。 与薬と併せて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 診療の補助技術・検査		根本 洋子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(23)	2 年教室・ 実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	検体採取・検査に伴う看護技術、採血・穿刺				
授業の目標及び 期待される学習効果	検査の目的と検査値の意味、検査における看護の役割、検査に伴う不安を最小にするための援助、正確な検査材料を得るための援助を学ぶ。 採血に必要な看護技術を修得することができる。				
授業の概要	基本検査 ①スクリーニング検査（ふるいわけ） ②精密検査 ③スクリーニング検査と精密検査の流れ 検査におけるインフォームドコンセントの重要性 A、検査に伴う看護と検査の種類 1、検査場面における看護師の役割 2、検査介助のポイント 3、検査の種類 B、検体検査の方法 1、排泄物の検査 2、体液の検査（血漿・血清・脳脊髄液） C、生体検査 X線検査、X線断層撮影、MRI、血管造影、内視鏡検査、超音波検査 心電図検査（12 誘導の演習）、核医学検査、基礎代謝検査、肺機能検査、 皮膚反応検査 血液検査（採血の目的・種類） シミュレーターによる採血デモ（採血部位の選択、穿刺法、止血など） ホルダー / シリンジによる採血				
履修上の要件	注射器・注射針の取り扱いや皮膚の消毒法は修得している。				
テキスト、教材、 参考書	系看 専門〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 新体系看護 18 基礎看護技術（メジカルフレンド社） 基礎看護技術プラクティス				
使用機器等	DVD、演習教材（採血用モデル・他）				
成績評価の方法	筆記試験				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床看護技術		池田 恵子・川畑 美佳子 学内教員		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (45)	教室 実習室	前期～後期	不定期	不定期
授業のキーワード	主要症状、根拠をふまえた援助、臨床看護技術				
授業の目標及び期待される学習効果	健康障害を持つ対象を理解し、主要症状・治療処置等の状態に応じて、根拠をふまえた看護技術を適応する基礎を習得できる。				
授業の概要	主要症状のある患者の事例についてグループ学習を行い援助計画を立案し、発表（プレゼンテーション）を行う。発表内容について他者評価を行い、技術の振り返りと共通理解をする。 1. 課題について援助計画を立案、実施、評価する。 1) 発熱のある患者、動悸のある患者、呼吸困難のある患者、易感染状態にある患者に対してバイタルサインを測定する。 2) 痛みのある患者、浮腫のある患者、出血傾向のある患者、易感染状態にある患者に対して寝衣交換または足浴を行う。 3) 咳・痰のある患者、嚥下障害のある患者、悪心のある患者、呼吸困難のある患者に対して口腔ケアまたは安楽な体位についての援助を行う。 4) 麻痺のある患者、骨折のある患者、貧血のある患者、痛みのある患者に対して車いすへの移乗または排泄の援助を行う。 2. 排尿困難のある患者の看護 一次的導尿、膀胱留置カテーテルの挿入(技術演習) 3. 技術試験				
履修上の要件	基礎看護技術の共通基本技術Ⅰ・Ⅱ・日常生活援助技術・ヘルスアセスメントが終了していること。				
テキスト、教材、参考書	基礎看護学別巻 看護技術の患者への適応／メヂカルフレンド社 症状別看護過程の展開／学研 看護技術プラクティス／学研				
使用機器等	実習室物品				
成績評価の方法	筆記試験、実技試験				
備考					

授業科目名		担当講師名	対象学年
基礎看護学実習Ⅰ		学内教員 実習指導教員	基礎Ⅰa：1年前期 基礎Ⅰb：1年後期
授業形態	単位（時間）	実習場所	
実習	1（45） 基礎Ⅰa(15) 基礎Ⅰb(30)	県立大島病院 大島郡医師会病院	
到達目標	基礎看護学実習Ⅰa 目的：対象の入院環境と一日の生活を知り、健康時との違いを理解する。 目標：1. 対象の入院生活の環境が説明できる。 2. 対象の1日の過ごし方を把握できる。 3. 対象に応じた看護師の援助活動を知る。 4. 対象をとりまく医療従事者の種類とその役割を知る。 5. 看護師としての態度、姿勢を学ぶことができる。 基礎看護学実習Ⅰb 目的：対象の看護の必要性を理解し、日常生活の援助が実施、評価できる。 目標：1. 対象との接し方がスムーズにできる。 2. 日常生活行動に関する情報が収集できる。 3. 情報を分析し援助の必要性が述べられる。 4. 日常生活行動の援助が実施、評価できる。 5. 看護師としての態度、姿勢を学ぶことができる。		
実習概要	基礎看護学実習Ⅰa 1. 病院オリエンテーション 2. 実習の進め方 1) 受け持ち患者については、学生1名に対して1例を受け持つ 受け持ち患者は、日常生活行動の援助が必要な患者、言語的非言語的コミュニケーションがとれる患者をできるだけ選定する 2) 看護師の援助場面に同行しケアや患者の反応を見学する。環境の調整は2日目に実習計画を立案し、実施する。		
	基礎看護学実習Ⅰb 1. 実習の進め方 1) 受け持ち患者については、学生1名に対して1例を受け持つ 受け持ち患者は、日常生活行動の援助が必要な患者、言語的非言語的コミュニケーションがとれる患者をできるだけ選定する 2) 受け持ち患者の看護計画を立案し日常生活の援助を実施、評価、修正する		
履修上の要件	基礎看護学実習Ⅰa：看護学概論Ⅰの看護の概念、看護の対象は終了している 共通基本技術Ⅰのコミュニケーションは終了している 日常生活援助技術の環境は終了している 基礎看護学実習Ⅰb：日常生活援助技術は終了している ヘルスアセスメントのバイタルサインは終了している		
テキスト、教材、参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ／医学書院		
成績評価の方法	基礎看護学実習Ⅰ評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価		

授業科目名		担当講師名	対象学年
基礎看護学実習Ⅱ		学内教員 実習指導教員	1 年後期
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (9 0)	県立大島病院 大島郡医師会病院	
到達目標	目的：問題解決技法を活用し、対象の看護上の問題を判別し、基本的援助を実施、評価できる。 目標：1．看護の情報を整理、分析し看護上の問題を判別できる。 2．患者にあった看護計画が立案できる。 3．計画に基づき日常生活行動の援助を安全・安楽に実施できる。 4．行った看護を評価できる。 5．看護師としての態度姿勢を学ぶことができる。		
実習概要	1．患者1名を受け持ち、日々の実習計画に基づいて行う。 2．援助技術は原則的に指導者と共に行う。 3．実習1～3日目は情報の収集、整理、基本的欲求の充足・未充足について分析を行う。 4．実習4～5日目には、未充足な基本的欲求の状態について解釈分析し、看護問題の抽出および患者の個別性に合わせた看護計画立案を行う。 5．2週目より立案した計画に沿って援助を実施する。また、ケースカンファレンスを実施する。 6．実施した援助の評価、修正を行う。		
履修上の要件	基礎看護学 共通基本技術Ⅱ 「看護過程の基礎」は終了していること。 基礎看護学実習Ⅰが終了していること		
テキスト、教材、参考書、	実習要項 系統看護学講座 基礎看護学1・看護学概論／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ／医学書院 ヘンダーソン看護理論の実践 ニューベルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューベルヒロカワ		
成績評価の方法	基礎看護学実習Ⅱ評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価		
備考			

授業科目名	担当講師名			対象学年	
成人看護学概論	富川 佳余子			1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	成人とは、 ライフサイクル 発達課題 生涯発達の考え方 成人と生活 健康の考え方 健康日本 2 1 成人へのアプローチ 保健・医療・福祉の連携 健康レベルに対応した看護アプローチ				
授業の目標及び期待される学習効果	成人各期の特徴を学び、対象である成人がどのような状態のもとで正常から異常へと移行していくか、またそれを予防し健康を維持していくためには、どのような方策が必要であるかを学習し、成人の全体像と成人看護の特質をつかむことができる				
	I. 成人の生活と健康（成人看護学を学ぶ目的） 1. 成人と生活 1) 発達課題、生涯発達の視点、青年期の発達危機について 2) 大人になること、ライフサイクル、自己の人生設計の作成 2. 生活と健康 1) 我が国における生活と健康の特徴 2) 保健・医療・福祉の変遷、動向、制度 2) 健康の考え方 3) 青年期・壮、中年期の特徴 健康問題 4) 生活環境と健康 生活習慣病 健康日本 2 1 3. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 2) 危機状況への対処 3) 看護マネジメント 倫理 4. 成人の健康レベルに対応した看護 1) 健康生活をはぐくむ看護 2) 生活ストレス、生活行動と健康生活のおびやかし 3) 健康の急激な破綻、生命の危機状態 4) 健康生活の慢性的な揺らぎと慢性病、セルフケア行動 5) 障害を持ちながらの生活とリハビリテーション 6) 人生の最後のときを支える看護 7) 新たな治療法、先端医療と看護				
履修上の要件					
テキスト 教材 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向				
使用機器	ビデオ				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅰ 脳神経疾患患者の看護		長井 安代		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	教室 実習室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	意識障害、運動失調、麻痺、言語障害、嚥下障害、排泄の障害、けいれん、頭蓋（とうがい）内圧亢進、脳血管疾患、脳変性疾患、開頭手術、脳室ドレナージ、障害受容、リハビリテーション、継続看護				
授業の目標及び期待される学習効果	脳神経疾患によりおこる症状や障害が理解できる。 脳神経疾患のある患者の看護が理解できる				
授業の概要	1. 脳神経疾患の概要 2. 症状及び障害に対する看護 ① 意識障害のある患者の看護：JCS, GCS 神経所見の観察、セルフケア、瞳孔の観察 ② 頭蓋内圧亢進：病態、症状、観察、治療、看護 ③ けいれん：症状、発作時の看護、生活指導 ④ 運動障害：運動麻痺、筋力低下、徒手筋力テスト、錐体外路症状 3. 検査を受ける患者の看護 頭部CT、MRI、MRA、脳血管造影、腰椎穿刺 4. 疾患を持つ患者の看護 ① 脳血管疾患：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血 ② 脳腫瘍、頭部外傷患者の看護				
履修上の要件	解剖生理学（脳神経）が終了していること。 リハビリテーションの実際については疾病と治療Ⅳで履修する。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 脳神経 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	運動器疾患患者の看護、セルフケアの看護過程とあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅰ 運動器疾患患者の看護		糸 ふじ代		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(20)	教室 実習室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	運動器疾患、骨折、ギプス固定、牽引、神経麻痺				
授業の目標及び 期待される学習効果	運動器疾患によりおこる症状や障害が理解できる。 運動器疾患のある患者の看護が理解できる				
授業の概要	1. 患者の特徴と疾病の経過・看護 援助のための主な知識と技術 1) 良肢位、床上での離床訓練 2) 日常生活動作に対する援助、排泄の援助 2. 検査を受ける患者の看護 1) 神経麻痺、フォルクマン拘縮、循環障害 2) 脊髄造影検査、関節造影検査 3. 保存療法を受ける患者の看護 1) ギプス固定、副子固定 2) 牽引療法（スピードトラック、鋼線牽引、グリソン牽引、骨盤牽引） 4. 経過に応じた看護 1) 急性期の看護：受傷時の応急処置、固定、搬送 2) 回復期の看護：リハビリテーション時の看護 5. 疾患を持つ患者の看護 大腿骨頸部骨折（骨接合術・人工股関節置換術） 脊髄損傷、脊椎圧迫骨折 6. 包帯法（演習） 7. 回復期の看護過程の展開				
履修上の要件	解剖生理学（筋・運動器）が終了していること。 運動器の病態については事前学習課題を行う。 リハビリテーションの実際については疾病と治療Ⅳで履修する。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 成人看護学Ⅰ 0 運動器 医学書院 看護技術プラクティス 学研				
使用機器等	パソコン、プロジェクター 包帯（伸縮包帯）、三角巾、弾性包帯				
成績評価の方法	筆記試験 50 点満点 看護過程 50 点満点 合計 100 点満点評価				
備考	脳神経疾患患者の看護、セルフケアの看護過程とあわせて 1 単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅱ 呼吸器疾患患者の看護		長井 安代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(2 0)	教室 看護実習室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	呼吸器疾患、呼吸困難、低酸素状態、C O 2 ナルコーシス、酸素療法、安楽な呼吸、呼吸器感染、呼吸を助ける看護技術				
授業の目標及び 期待される学習効果	呼吸器疾患について理解を深め、症状や検査所見を判断する能力を養う。 呼吸器疾患を持つ患者のつらさや苦しさについて理解を深める。 安楽な呼吸、呼吸回復のための看護技術を習得する。				
授業の概要	1. 疾患を持つ患者の看護 1) 症状に対する看護 ①咳、痰 ②呼吸困難、胸水 2) ①肺炎患者の看護、②結核患者の看護 ③喘息患者の看護、④慢性肺気腫患者の看護 ⑤肺癌患者の看護、⑥その他の呼吸器疾患(肺塞栓症、自然気胸) 3. 治療・処置・検査を受ける患者の看護 ①気管支鏡検査 ②胸腔穿刺、胸腔ドレナージ ③吸入療法 ④酸素療法 マスクの種類、酸素ボンベの取り扱い ④人工呼吸器 ⑤気道確保、気管内挿管、気管切開 ⑥手術療法 4. 呼吸器疾患患者の看護技術演習 ①気管内吸引、口鼻腔内吸引の技術				
履修上の要件	解剖生理学Ⅱ呼吸器が終了していること				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 呼吸器 医学書院 看護技術プラクティス				
使用機器等	パソコン、プロジェクター、気管内吸引物品、C P S 実習装置、パルスオキシメーター他				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	循環器疾患患者の看護と併せて1 単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅱ 循環器疾患患者の看護		池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(1 0)	教室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	心臓の機能、血管、心不全、虚血性心疾患、不整脈、急性期、回復期、慢性期、心臓リハビリテーション、心電図、心臓カテーテル検査、PCI 治療、ペースメーカー、心臓の手術、徐細動器、循環器薬、生活指導				
授業の目標及び期待される学習効果	循環機能障害患者の看護について理解する。				
授業の概要	1. 循環機能障害 1) 心不全 右心不全、左心不全の病態、症状、観察、治療 2) 虚血性心疾患 狭心症・心筋梗塞の病態、症状、観察、治療 2. 急性期の看護 1) 苦痛の緩和 2) 合併症の予防 3) セルフケア 4) 心理的ケア 5) 家族のケア 3. 検査・治療を受ける患者の看護 1) 心臓カテーテル検査、PCI 治療 2) ペースメーカー 3) C A B G 4. 回復期の看護 心臓リハビリテーション 5. 慢性期の看護 薬物療法、生活指導 6. 不整脈、徐細動器 心電図の理解				
履修上の要件	循環器疾患については事前学習課題を行う。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 成人看護学 3 循環器				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	呼吸器疾患患者の看護とあわせて 1 単位とする。				
授業科目名		担当講師名		対象学年	

成人看護学Ⅲ 消化器疾患患者の看護		池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	1 年次教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	クリティカルケア、生活習慣病、生体反応、危機理論、障害受容過程				
授業の目標及び 期待される学習効果	消化器疾患患者の看護を学ぶ。				
授業の概要	1. 症状に対する看護 嚥下困難、胸やけ、嘔吐、腹痛、吐血（S－Bチューブ）、下血 下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振、横断、肝性脳症 2. 疾患を持つ患者の看護 食道癌：主な症状、治療法 胃・十二指腸胃腸潰瘍：原因、症状、治療、生活指導 胃癌：分類、症状、手術療法、ダンピング症候群 大腸癌：分類、症状、手術療法、人工肛門 胆石・胆嚢炎：腹腔鏡下胆嚢摘出術、生活指導 肝炎・肝臓癌・肝硬変：B 型肝炎、肝不全代償期・非代償期 膵炎・膵臓癌：症状、治療、生活指導 3. 検査を受ける患者の看護 内視鏡検査、造影検査（胃透視、注腸、ERCP）、生検 4. 治療・処置を受ける患者の看護 食事療法（術後の食事）				
履修上の要件	解剖生理学、病理学で消化器の機能や病態を復習しておく。生化学、薬理学で検査データの意味や薬物の作用、副作用を復習しておく。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学〔5〕消化器／医学書院 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論／医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター、ビデオ				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	健康危機状態の看護および看護過程とあわせて1 単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ 健康危機状況における看護		池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(1 0)	教室	前 期	不定期	不定期
授業のキーワード	術前・術後の看護、侵襲時の生体反応、回復過程、麻酔侵襲と看護、術後合併症、創傷の治癒過程、救急看護				
授業の目標及び 期待される学習効果	生命の危機状態が理解できる。 身体侵襲と生体反応が理解できる。 術前の看護、術中の看護、術後の看護が理解できる。				
授業の概要	1. 身体侵襲と生体反応 ・ムーアの分類 ・神経内分泌反応 ・創傷の治癒過程 2. 健康危機状況と看護 1) 侵襲的治療(手術療法)をうける人の看護 (1) インフォームドコンセントと看護師の役割 (2) 手術前の看護 (3) 手術中の看護 (4) 手術後の看護 (5) 術後合併症の予防と看護 (6) 回復を促進する援助 (7) 日常生活の自立に向けての援助 (8) 内視鏡による手術の看護 (9) クリティカルパス 3. 生命の危機状態にある人の看護 1) 救急看護の基礎 2) 救命・集中治療を必要とする人の看護 (1) 集中治療室の対象 (2) 救急看護の概要				
履修上の要件	成人看護学Ⅲ消化器疾患患者の看護が終了していること				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学〔5〕消化器／医学書院 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論／医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	消化器疾患患者の看護、健康の危機状態にある患者の看護過程とあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ 健康危機の看護過程		池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(1 0)	教室	前 期	不定期	不定期
授業のキーワード	術前・術後の看護、侵襲時の生体反応、回復過程、麻酔侵襲と看護、術後合併症、創傷の治癒過程				
授業の目標及び期待される学習効果	手術を受ける患者の情報が整理できる。 情報を関連させ、手術を受ける患者の全体像が描ける。 情報の読み取りができ、術前・術後の患者の看護問題と必要な看護が考えられる。 成人看護学実習（急性期）において看護過程が展開できる。				
授業の概要	※手術を受ける患者（ペーパーペイシェント）の看護過程を展開する。 - 情報の読み取り 患者の基礎情報を「基礎情報用紙」に整理する。 患者の疾患に対する思いなどを読み取る。 - 基本的欲求の分類と読み取り 「基本的欲求」の用紙に情報を整理する。 必要な情報が読み取れる 情報を分析し、充足・未充足を判断する - 全体像 情報を関連させ全体像を描く(板書にて説明) - アセスメントと看護問題 情報をもとにアセスメントし、術前の看護問題、術後の看護問題を抽出、優先順位を判断する。(文献を参考にする) - 看護計画立案 患者に必要な術前・術後の看護計画を立案する。(文献を参考にする)				
履修上の要件	成人看護学Ⅳ消化器疾患患者の看護、周手術期の看護が終了していること				
テキスト、教材、参考書	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 疾患別看護過程の展開 系統看護学講座 成人看護学 消化器 今日の治療薬 わかる検査値とケアのポイント				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	看護過程用紙・レポートの提出、および内容によって点数化し評価する。				
備考	消化器疾患患者の看護、健康危機状態の患者の看護とあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 内分泌・代謝疾患		里島 なおみ		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	生涯コントロール、メタボリック、シックデイ、インスリン療法 慢性期患者の看護、運動療法、食事指導、フットケア				
授業の目標及び 期待される学習効果	内分泌疾患・代謝疾患患者の特徴が理解できる。 内分泌疾患・代謝疾患患者の看護が理解できる。				
授業の概要	1. 代謝疾患患者の看護 1) 糖尿病患者の看護 ・運動、食事、薬物療法 ・慢性合併症と急性合併症に対する援助 ・フットケア 2) 検査を受ける患者の看護 2. 内分泌疾患患者の看護 1) 下垂体疾患患者の看護 2) 甲状腺疾患患者の看護 3) 副甲状腺疾患患者の看護 4) 副腎疾患患者の看護 3. 高脂血症、肥満症患者の看護 4. 痛風・高尿酸血症患者の看護				
履修上の要件	栄養学 解剖生理学、病理学（内分泌、代謝） 成人看護学総論が終了していること。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	腎泌尿器、女性生殖器とあわせて 1 単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 腎・泌尿器科		清田 香		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教 室	前 期	不定期	不定期
授業のキーワード	腎不全、透析療法、CAPD、糖尿病性腎症、排尿障害、尿毒症、男性生殖器、x 線検査 (RP、CG、UG、DIP) 腎移植、前立腺疾患、尿路変更、尿路結石				
授業の目標及び 期待される学習効果	腎・泌尿器疾患患者の特徴を理解する。 腎・泌尿器疾患患者の看護を理解する。				
授業の概要	1. おもな疾患を持つ患者の看護 ① 慢性腎不全患者の看護 (透析療法、CAPD) ② 急性腎不全患者の看護 ③ 前立腺疾患患者の看護 (前立腺生検、TUP - P, 前立腺全摘術) ④ 尿路疾患患者の看護 (TUL、ESWL, 尿路変更、ウロストミー) ⑤ 男性生殖器疾患患者の看護 2. おもな症状に対する看護 ① 浮腫のある患者 ② 排尿障害のある患者 ③ 疼痛のある患者 3. 治療・処置・検査をうける患者の看護 ① 透析療法・CAPD ② 手術療法 ③ X 線検査 (RP、CG、UG、DIC) ④ 腎移植 (前立腺生検、TUP - P, 前立腺全摘術) ⑤ ウロストミー				
履修上の要件	解剖生理学、病理学、生化学、腎・泌尿器の疾患及び看護の知識が必要とされる。 基礎看護学においては安全・安楽、感染予防看護等と関連づけて学習すると望ましい。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専分野門Ⅱ 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	内分泌、女性生殖器とあわせて 1 単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 女性生殖器・感覚器		糸 ふじ代 川畑 美佳子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教 室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	ボディイメージ、マンモグラフィー、内診、放射線療法、乳房切除後のリハビリテーション、子宮筋腫、STD、帯下、更年期障害、子宮頸がん 子宮体がん、熱傷、アレルギー、帯状疱疹、スキンケア、視力障害、白内障、緑内障、メニエール病、慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎、光凝固、硝子体手術				
授業の目標及び 期待される学習効果	女性生殖器疾患をもつ患者の看護が理解できる。 女性生殖器疾患をもつ患者の特徴が理解できる。 感覚器疾患患者の特徴が理解できる。 感覚器疾患患者の看護が理解できる。				
授業の概要	1. 女性生殖器の解剖生理 2. 女性ホルモンの働き 3. 女性生殖器疾患を持つ患者の心理、看護者の役割 4. 治療・処置・検査をうける患者の看護 ① マンモグラフィー、乳がん検診 ②化学療法 ③放射線療法 ④手術療法（子宮摘出術、乳房切除術） 5. 女性生殖器疾患の看護 ① 子宮筋腫 ②乳がん ③子宮がん 6. リハビリテーション ① 乳房切除後リンパ浮腫に対するリハビリテーション 7. おもな感覚器疾患を持つ患者の看護 ① 皮膚科：熱傷・帯状疱疹・皮膚癌 ② 耳鼻咽喉科：難聴、メニエール病、慢性副鼻腔炎、慢性中耳炎 ③ 眼科：白内障、緑内障、糖尿病性網膜症 ④ 歯科・口腔：口腔癌、口腔ケア 悪性腫瘍（病巣部の切除に伴う各種機能障害、ボディイメージの障害、放射線療法による感覚障害）				
履修上の要件	解剖生理学、病理学、微生物、生化学、感覚器疾患及び看護の知識が必要とされる。内分泌・女性生殖器疾患を履修しておくこと				
テキスト、教材、 参考書	成人看護学Ⅱ 女性生殖器 医学書院 成人看護学Ⅱ 皮膚 医学書院 成人看護学Ⅱ 眼 医学書院 成人看護学Ⅱ 耳鼻咽喉 医学書院 成人看護学Ⅱ 歯・口腔 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	内分泌、腎泌尿器とあわせて1単位とする。				
授業科目名		担当講師名		対象学年	

成人看護学Ⅴ 血液・アレルギー・膠原病・感染		里島 なおみ		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教 室	前 期	不定期	不定期
授業のキーワード	貧血、白血病、悪性リンパ腫、DIC、AIDS、HIV、アナフィラキシー エリテマトーデス、リウマチ				
授業の目標及び 期待される学習効果	生体防御機能に障害を持つ患者の特徴が理解できる。 生体防御機能に障害を持つ患者の看護が理解できる。				
授業の概要	1. 血液造血器疾患患者の看護 ・おもな疾患を持つ患者の看護（白血病、悪性リンパ腫、I T P） ・検査に伴う看護（骨髄検査） ・治療処置に伴う看護（薬物療法、造血幹細胞移植） ・おもな症状に対する看護（貧血、出血傾向、易感染） 2. 膠原病疾患患者の看護 ・おもな疾患を持つ患者の看護（関節リウマチ、S L E，強皮症） ・おもな症状に対する看護（関節症状、皮膚粘膜症状、発熱） 3. アレルギー疾患患者の看護 ・免疫反応とアレルギーのしくみ、自己免疫 ・おもな疾患を持つ患者の看護（喘息、アトピー、アナフィラキシー） ・おもな症状に対する看護（皮膚症状、呼吸器症状） ・減感作療法をうける患者の看護 4. 感染症疾患患者の看護 ・おもな疾患を持つ患者の看護（敗血症、D I C，H I V，A I D S） ・おもな症状に対する看護（発熱、発疹、下痢、意識障害）				
履修上の要件	解剖生理学、病理学、微生物、生化学、血液系の疾患及び看護の知識が必要とされる。基礎看護学においては安全・安楽、感染予防看護等と関連づけて学習すると望ましい。 事前学習課題を提示します。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1 1 アレルギー・膠原病、感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	緩和ケア、終末期の看護過程とあわせて1単位とする。				

授業科目名	担当講師名	対象学年
成人看護学Ⅴ 緩和ケアの概念	前田 亜希子	2 年次

授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教 室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	癌性疼痛、症状マネジメント、ペインスケール、WHO 3 段階除痛ラダー グリーフケア、ホスピス、コミュニケーション、がん対策基本法				
授業の目標及び 期待される学習効果	・緩和ケアを必要とする患者の看護を理解することができる。 ・患者・家族の悲観の看護を理解することができる。				
授業の概要	1. 緩和ケア ・全人的苦痛（トータルペイン）の概念 ・ 痛みの理解（フェイススケール、ペインスケール） ・ 症状マネジメント ・ WHO 3 段階除痛ラダー（非オピオイド、オピオイド製剤） ・疼痛緩和へのアプローチ（薬理的、感覚的、認知的アプローチ、身体活動的アプローチ） ・疼痛緩和評価 2. 生きることを支える ・ 食べることへの支援 ・ 動くことへの支援 ・ 排泄への支援 ・ 清潔を保つことへの支援 ・ 眠ることへの支援 ・ コミュニケーションを維持することへの支援 3. スピリチュアルケア 4. 患者・家族の悲観の看護（グリーフケア） ・ 喪失と悲観 ・ グリーフワーク（悲観の作業） ・ 遺族の悲観への看護 5. 存在を支える看護としての緩和ケア				
履修上の要件	薬理学・栄養学・解剖生理学 基礎看護技術 在宅看護論が終了していること				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論 第9章 医学書院 Q&Aでよくわかるガン性疼痛ケア 照林社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	血液、終末期の看護過程とあわせて1単位とする。				
授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学V 終末期患者の看護過程		里島 なおみ		2 年次	

授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教 室	後 期	不定期	不定期
授業のキーワード	緩和ケア、ターミナルケア、終末期医療、死の概念、全人的苦痛、死の準備教育（デスエデュケーション）、エンドオブライフケア、死後の処置				
授業の目標及び期待される学習効果	・終末期にある患者、家族を理解しその人らしく生き抜くことを支える援助について考えることができる。 ・終末期患者の看護過程が理解できる ・死にゆく患者を援助する看護師に求められる姿勢を考えることができる。				
授業の概要	1. 人生の最期の時を支える看護（終末期の看護過程） 1）終末期患者の看護過程（乳がん患者の事例） 終末期にある対象の情報収集の視点 対象の全体像を把握する 2）援助内容 ・エンドオブライフケア ・全人的苦痛に対する援助 ・終末期にある対象の家族の理解と支援 ・意思決定への支援とアドバンスケアプランニング ・その人らしく尊厳をもって生き抜くための支援 ・遺族ケア ・死後の処置 3）終末期における看護師の役割・機能 2. 死にゆく患者を援助する看護師に求められる姿勢とは				
履修上の要件	薬理学・栄養学・解剖生理学 基礎看護技術 在宅看護論 呼吸器疾患患者の看護が終了していること。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 第9章 医学書院 Q&Aでよくわかるガン性疼痛ケア 照林社 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅸ 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	看護過程提出、レポート				
備考	血液・緩和ケアとあわせて1単位とする。				

授業科目名	担当講師名	対象学年
老年看護学概論	脇田 真由美	1 年次

授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(30)	1年生教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	老化に伴う身体的・精神的・社会的・霊的特徴				
授業の目標及び期待される学習効果	老年期にある対象の特性を理解し看護の役割、機能について学習する。 我が国の高齢化問題を理解し、高齢者や家族、地域、医療福祉機関に及ぼす影響や、高齢者を取り巻く環境の変革について考察する。				
授業の概要	1. 老年看護の理念・目標・原則 1) 老いとは 高齢者の特性 2) 個別性の尊重 自尊心の尊重 2. 老年看護の対象 1) ライフステージとしての老年期 発達課題 2) 老化に伴う身体的・精神的・社会的・霊的特徴 3) 模擬体験（老人体験スーツ） 3. 高齢社会と社会保障 1) 我が国の人口高齢化の特徴とその影響 2) 高齢社会の統計的輪郭 3) 高齢社会における保健医療福祉の動向 ①高齢者医療の動向 ②高齢者の保健活動 ③ソーシャルサポートシステム 4. 介護保険制度 1) 制度創設の背景と目的 2) 給付対象とサービス内容 3) 施設サービス、在宅サービス 5. 高齢社会における権利擁護 1) 高齢者虐待 2) 身体拘束 3) 成年後見制度と日常生活自立支援事業 6. 高齢者と家族 1) 家族形態の社会的変化 2) 家族への支援				
履修上の要件	心理学（成長発達課題）・解剖生理学（循環、内分泌、腎泌尿器、感覚、運動器、消化器）を履修していることが望ましい。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 新体系看護学全書 老年看護学概論・老年保健 メヂカルフレンド社 関連資料配布 老年体験スーツ				
使用機器等	パソコン、プロジェクター、DVD				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	内容によりグループワーク・発表				

授業科目名	担当講師名	対象学年
-------	-------	------

老年看護学Ⅰ 患者理解と疾患		長井 安代 濱田 秀子		2 年次	
授業形態	単位時間	教室等	学期	曜日	時限
講義	(20)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	高齢者の健康障害 高齢者の主要徴候 加齢による生活機能の低下				
授業の目標及び 期待される学習効果	老年者の健康障害の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護について理解する。				
授業の概要	1. 高齢者のアセスメント 1) 身体に加齢変化とアセスメント 2) 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント 2. 健康逸脱からの回復のための看護の展開 1) 検査・治療を受ける高齢者への看護 2) 疾患をもつ高齢者への看護 脳卒中、心不全、パーキンソン病、 インフルエンザ、肺炎、 ノロウイルス感染症、骨粗鬆症 など 3) 認知症の理解と看護 *健康障害をもつ高齢者の看護を学ぶ *自立した生活を維持し、さらに寝たきり状態を作らない ためにもリハビリテーションの意義が大きいことを学ぶ *高齢者特有の疾患に目を向け、廃用症候群の予防や残存機能の 大切さを学ぶ				
履修上の要件	解剖生理学を履修していることが望ましい。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	日常生活の援助とあわせて1単位とする。				

授業科目名	担当講師名	対象学年
-------	-------	------

老年看護学Ⅰ 日常生活の援助		根本 洋子		2年次	
授業形態	単位時間	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	2年生教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	高齢者は 人生の完成期 老いへの適応課題 人間として尊厳が保たれる 健康長寿 自分らしい、自立した生活 看護師は ヘルスアセスメント キュアとケアの統合 危険の予測、予防 環境の調整				
授業の目標及び 期待される学習効果	1 高齢者が人間として生きる喜びを獲得できるよう健康面から支援する 健康の維持・増進、QOL 向上への支援。 2 老年症候群の予防―日常生活の援助を通して、老年者が主体的に取り組む セルフケアを高め、ADL の維持向上、QOL を保つ。				
授業の概要	1. 高齢者の生活機能を整える看護の展開 1) 日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメントと看護 ADL、IADL ②転倒のアセスメントと看護 ③廃用症候群のアセスメントと看護 2) 排泄 排泄障害、尿失禁、便秘、下痢 3) 清潔 4) 生活リズム 5) コミュニケーション 老人性難聴 食事・食生活は老年看護学Ⅱで履修				
履修上の要件	解剖生理、老年看護概論などを終了している。				
テキスト、教材 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験、提出物				
備考	患者理解とあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学Ⅱ 老年看護技術・看護過程		長井 安代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(20)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	摂食・嚥下障害、摂食・嚥下訓練、褥瘡、 QOLの向上、残存機能の維持、拡大				
授業の目標及び 期待される学習効果	老化や健康障害による摂食・嚥下障害がある高齢者への援助方法がわかる。 健康障害による褥瘡発生の予防、援助方法がわかる。 老年看護を総合的に理解し、健康障害をもつ高齢者の看護過程が展開できる。				
授業の概要	【老年看護の技術】 1. 摂食・嚥下障害への援助、食事・食生活 1) 摂食・嚥下のメカニズム 2) 摂食・嚥下障害のアセスメント 3) 摂食・嚥下訓練の実際「演習」 間接訓練：嚥下体操、アイスマッサージ 直接訓練：食べ物を用いた摂取訓練 2. 褥瘡予防、褥瘡ケア 1) 褥瘡の発生要因、褥瘡の好発部位 2) 褥瘡のリスクアセスメント 3) 褥瘡の予防 4) 褥瘡発生後のケア 【看護過程の展開】 1) 事例を用いた看護過程の展開 事例 脳血管障害 パーキンソン病 など *対象である高齢者の健康と社会的自立、QOLを 考えた看護過程を展開することは重要であることを 理解する				
履修上の要件	老年看護学概論の講義は終了している。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験・事例看護過程				
備考	施設における看護とあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学Ⅱ 各施設における老年者の看護		濱田 秀子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	病院・施設における看護ケア 治療を受ける老年者の看護 介護保険 家族支援				
授業の目標及び 期待される学習効果	1) 保健・医療・福祉制度の変革が老年看護に与える影響と看護師の役割について理解できる。 2) 病院・施設における老年看護を理解する。 3) 治療を受ける老年者への看護を理解する。				
授業の概要	1. 各保健・医療・福祉施設における看護ケア 1) 介護保険制度・介護支援専門員の役割と機能 2) 急性期を担う医療施設の特徴と看護 ・アセスメントの視点 ・入院時のオリエンテーション 3) リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護 ・リハビリテーション 4) 高齢者の施設サービスにおける看護 ・施設の特徴と看護 ・居宅サービスにおける看護 5) 高齢者を介護する家族の支援 ・介護家族の生活と健康 ・介護状況の把握と分析 ・援助対象としての家族の視点と看護 ・介護力の評価 ・介護への適応のための看護 ＊高齢者のニーズに応じたサービスを提供するための制度を理解し、援助の方向性、他職種との連携、協働について学ぶ				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 新体系看護学全書 老年看護学概論・老年保健				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考	技術・看護過程とあわせて1単位とする。				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学概論		富川 佳余子		1 年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	1 年教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	子どもの特徴 成長・発達 子どもを取り巻く環境 倫理				
授業の目標及び期待される学習効果	1. 小児期の成長・発達を理解し小児各期の特徴と、子どもを取り巻く環境（家族、社会）を理解する。 2. 小児保健医療の動向と施策を理解し、小児看護の目的・機能・役割を理解する。				
授業の概要	1. 小児看護とは 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 3) 家族の特徴とアセスメント 2. 小児と家族の統計 1) わが国の人口構造 2) 出生と家族 3) 小児の死亡 3. 小児看護の変遷 1) 小児医療の変遷 2) 小児看護の変遷 3) 現代の小児看護 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題 1) 疾病構造の変化と小児看護 2) 社会の変化と小児看護 3) 小児看護の専門分化 6. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 小児をめぐる法律と政策 2) 学校保健 3) 予防接種 4) 病児教育 7. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長の評価 5) 発達の評価 8. 小児各期の特徴（新生児・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期） ①身体発育 ②運動機能 ③感覚機能 ④知的機能 ⑤栄養・食育 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会性 ⑧養育及び看護 ⑨基本的生活習慣の獲得 ⑩日常生活（生活・睡眠・遊び・食生活） ⑪心理・社会的適応に関する問題				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論、小児臨床看護総論 医学書院				
使用機器等	ビデオ・パソコン				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学 I (健康レベルに応じた看護)		川畑 美佳子 長井 安代		2 年次	
授業形態	単位時間	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	2 年教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード					
授業の目標及び 期待される学習効果	・健康問題・障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 ・子どもに出現しやすい症状及びその看護を理解する。				
授業の概要	1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 2. 子どもにおける疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 3) 周手術期にある子どもと家族の看護 4) 終末期にある子どもと家族の看護 3. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 4) 災害時の子どもと家族の看護 4. 症状を示す子どもの看護 1) 啼泣・不機嫌 2) 痛み 3) 呼吸困難 4) チアノーゼ 5) ショック 6) 発熱 7) 嘔吐 8) 下痢 9) 便秘 10) 脱水 11) 浮腫 12) 出血 13) けいれん 14) 意識障害 15) 発疹 16) 黄疸 17) 掻痒感 18) 熱傷 19) 誤嚥				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論、小児臨床看護総論 医学書院				
使用機器等	ビデオ				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学 II (治療・処置を受ける小児の看護)		川畑 美佳子・重 しほ子 大山 周子		2 年次	
授業形態	単位時間	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	2 年教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード					
授業の目標及び 期待される学習効果	健康問題・障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 小児期に見られる主な健康問題・障害とその看護について理解する。				
授業の概要	1. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 検査・処置総論 ・子どもにとっての検査・処置体験 ・看護の実際 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 検査・処置各論 ①与薬 ②輸液管理 ③抑制 ④検体採取（採尿・採便・採血・ 骨髓穿刺・腰椎穿刺）⑤罨法 ⑥経管栄養 ⑦排泄 ⑧呼吸症状の緩和（吸引・吸入・酸素）⑨救命処置 2. 障害のある子どもと家族の看護 ①障害のとらえ方 ②障害のある子どもと家族の特徴、社会的支援 3. 子どもの虐待と看護 4. 疾患をもった小児の看護 1) 消化器疾患をもつ小児の看護 2) 呼吸器疾患をもつ小児の看護 3) 循環器疾患をもつ小児の看護 4) 血液疾患をもつ小児の看護 5) 泌尿・生殖器疾患をもつ小児の看護 6) 神経・筋疾患をもつ小児の看護 7) 代謝性疾患をもつ小児の看護 8) アレルギー疾患をもつ小児の看護 9) 感染症をもつ小児の看護 10) 運動器疾患をもつ小児の看護				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 II 小児看護学概論・総論 医学書院 系統看護学講座 II 小児臨床看護各論 医学書院				
使用機器等	視聴覚教材				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅲ (小児看護における技術)		川畑 美佳子		2 年次	
授業形態	単位時間	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	2 年教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	技術 看護過程				
授業の目標及び 期待される学習効果	小児看護に必要な看護技術を習得する。 小児期に必要な看護過程の方法を学ぶ。				
授業の概要	1. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 ①身体測定 ②バイタルサインの測定 2) 身体アセスメント ①一般状態 ②眼 ③耳 ④顔面・鼻・口腔 ⑤呼吸 ⑥心臓・血管系 ⑦腹部 ⑧筋・骨格系 ⑨神経系 ⑩生殖器 ⑪リンパ系 ⑫皮膚・爪・体毛 2. 小児における遊びと学習（各発達段階における遊びと学習の目的） 3. 小児看護における看護過程 事例：川崎病の患児 ネフローゼ症候群の患児 気管支喘息の患児				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 Ⅱ 小児看護学概論・総論 医学書院 系統看護学講座 Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院				
使用機器等	視聴覚教材				
成績評価の方法	筆記試験、看護過程、レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護概論		一瀬 いつ子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前・後期	不定期	不定期
授業のキーワード	母性看護の概念と意義 性と生殖 母性のライフサイクル リプロダクティブヘルス/ライツ 統計 諸制度				
授業の目標及び期待される学習効果	次世代の健全な育成をめざし、母性の一生を通じた健康の維持・増進 疾病の予防を目的とした看護基礎教育として修得できること				
授業の概要	1. 女性の生涯における母性の役割と特性を理解し、母性看護の意義と看護師の役割について理解できる。 ① 母性看護の基盤となる概念 母性とは、母子関係と家族発達 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション、母性看護のあり方、 母性看護における倫理、 母性看護における安全・事故予防 ②母性看護の変遷と現状 母性看護の対象を取り巻く環境 ③母性看護の諸制度 ④母性看護の意義と看護師の役割について学ぶ 2. 母性各期の特徴をとらえ、健康の維持・増進のための看護の必要性を理解できる ①ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ②母性の健康生活と影響する因子 ③母性看護に必要な技術—母性看護における看護過程、母性看護に使われる看護技術 ④ 思春期、成熟期、更年期、老年期の健康と看護 ⑤ ライフサイクル各期にまたがる健康問題と看護				
履修上の条件					
テキスト、教材 参考書	母性看護学概論 医学書院 女性の健康 解剖生理学 国民衛生の動向				
使用機器等	ビデオ パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験 レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学Ⅰ (妊娠・分娩・産褥・新生児の看護)		平 玲子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (45)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	妊娠期, 分娩期, 産褥期, 新生児期の生理と看護, 異常時の看護				
授業の目標及び 期待される学習効果	妊婦, 産婦, 褥婦, 新生児の生理的変化を理解し, 看護及び保健指導を行う能力を養う。妊娠期, 分娩期, 産褥期, 新生児期の正常からの逸脱, または異常時の状況を理解し, 援助方法を学ぶ。				
授業の概要	1 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的変化 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 妊婦と家族の看護 5) 妊娠の異常と看護 2 分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 3) 産婦・胎児・家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩の異常と看護 3 新生児期における看護 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護 4) 新生児の異常と看護 4 産褥期における看護 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 4) 産褥の異常と看護				
履修上の条件	母性看護学概論の終講				
テキスト, 教材等	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 病気がみえる・産科 vol 10				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験 (中間試験, 終講試験)				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学Ⅱ (母性看護技術・看護過程)		一瀬 いつ子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	妊娠、分娩、新生児、退行性変化(子宮復古)、進行性変化、 乳房・乳頭の観察、レオポルド触診法、ウェルネス志向				
授業の目標及び 期待される学習効果	妊婦・産婦・新生児の生理的変化を理解し、看護及び保健指導を行う能力を養う。 産褥期の正常からの逸脱、または異常時の状況を理解し援助の方法について学ぶ。新生児が胎外生活に適応し、順調に成長発達するために必要な看護を学習する。				
授業の概要	〈母性看護技術〉 1. 妊娠期 1) 児心音の聴取 2) 腹囲・子宮底の測定 3) レオポルド触診法 2. 産褥期・新生児期 1) 新生児の計測・沐浴 2) 調乳 3) 乳頭・乳輪マッサージ 4) 産褥体操 〈看護過程の展開〉 事例による看護過程の展開 1) 正常な経過をたどる 妊娠期～分娩期～産褥期(褥婦・新生児) 2) ハイリスク妊娠				
履修上の要件	母性看護学ハイリスク生理と関連づけて学習する。 解剖生理・女性生殖器も学習しておく。				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学 母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ 周産期各論 (医歯薬出版)				
使用機器等	ビデオ、実習室物品				
成績評価の方法	筆記試験、レポート				
備考	沐浴の技術はチェックリスト				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学概論		濱田 秀子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	精神保健看護、コンサルテーション、心的装置、対人関係				
授業の目標及び期待される学習効果	精神看護学の位置づけと精神看護の目的、対象、看護の役割について理解する。また、対象に応じた心の健康の保持・増進への看護の重要性と方法について学ぶ。				
授業の概要	1. 精神看護学とは 1) 精神看護学の位置づけ 2) 精神看護の目的と意義 2. 精神看護の対象 1) こころの健康に問題を持つ人 2) 患者－看護師の相互作用 3. 精神看護の場 1) 地域精神保健活動 2) 精神障害者の看護の特徴 3) チーム医療と看護の役割 4. 精神保健医療および看護の変遷と現状 1) 欧米における精神保健医療の変遷 2) わが国における精神保健医療の変遷 3) 精神保健の倫理と精神福祉行政 4) 法律や制度の現状 (1) 精神保健福祉法の基本的な考え方 (2) 精神保健福祉法による入院形態 (3) 社会復帰のための施設 5. 精神の構造とはたらき 1) イド (エス)・自我・超自我 2) 意識・前意識・無意識 3) 自我の防衛機制				
履修上の要件	心理学において、人間の心理や行動について学び、自己・他者理解の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院 国民衛生の動向 看護学生のための心理学 ナーシンググラフィカ 32 情緒発達と看護の基本				
使用機器等	PC、プロジェクター、DVD				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅰ (精神障害の理解)		濱田 秀子・		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	2 年生教室 実習室	前～後期	不定期	不定期
授業のキーワード	ストレス、コーピング、コミュニケーション				
授業の目標及び 期待される学習効果	精神看護の対象はすべての人々であり、人間の心の動き、健康、健康障害、ライフステージの視点から正しく理解する。また、現代社会における精神の問題を理解し、心の健康を保持・増進するための方法を理解する。				
授業の概要	1, 心の健康と身体の関係 1) ストレスが身体に及ぼす影響 2) 健康段階が精神に及ぼす影響 3) 発達過程における危機 4) 思春期・青年期における心の健康問題 5) 社会・職場における心の健康問題 2, 心の健康の保持・増進への援助 1) カウンセリングの技法 2) 危機状況への介入と社会資源 3) 対人関係成立への援助 3, コミュニケーション演習 1) 看護場面におけるコミュニケーション技術 2) 傾聴、受容、共感的態度 3) 接触の方法・面接技法・タッチング 4) プロセスレコードの意義 4, 精神疾患を持つ患者の社会資源と資源の活用方法				
履修上の要件	精神看護学概論を終了していること				
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院				
使用機器等	パソコン、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考	内容によりグループワーク、発表				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅱ (精神に障害のある患者の看護)				2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	対人関係／観察の視点／急性期・回復期・慢性期の看護				
授業の目標及び 期待される学習効果	「精神看護に共通する看護」として対人関係の持ちかた、観察の視点について学び、対象を理解する力を身につけることができる。 精神に障害を持つ対象の症状の現れ方、言動の特殊性について学び、看護者の対象に対する「関わり方」「看護」を理解することができる。				
授業の概要	1, 精神に障害のある人への看護介入 (統合失調症、気分障害) 1) 患者－看護者関係の成立 2) 日常生活の援助 3) 社会生活適応への援助 4) 家族への援助 2, 主な検査・治療を受ける患者の看護 1) 薬物療法を受ける患者の看護 2) 精神療法を受ける患者の看護 3, 経過別看護の方法 1) 急性期患者の看護 (入院治療) 2) 慢性期患者の看護 3) 社会復帰をする患者の看護 4, 問題行動をもつ人の看護 1) 不安状態にある人 2) 引きこもり状態にある人 3) 強迫行為のみられる人 4) 拒否 (拒絶) 的な行動のみられる人 5, 精神障害のある患者への共通な援助方法 1) 病室環境の調整 2) 入院生活上の問題とケア 3) 観察				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学[1]精神看護の基礎／医学書院				
使用機器等	PC、プロジェクター				
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅲ (看護過程の展開)		濱田 秀子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	3 年生教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	ヘンダーソンモデル、観察、アセスメントの視点、セルフケア、対人関係				
授業の目標及び 期待される学習効果	看護過程の展開を通して、精神障害のある患者の看護を理解することができる。				
授業の概要	事例による看護過程の展開 1, 看護に必要な情報収集 2, 精神症状のアセスメント視点 3, 基本的構成要素に基づいた精神看護の視点 事例：統合失調症 長期入院におよぶ慢性期の患者を想定				
履修上の要件	疾病と治療Ⅴ「精神」、基礎看護学「共通基本技術Ⅰ・Ⅱ」、精神看護学Ⅰ・Ⅱは終了していること				
テキスト、教材、 参考書	はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版株式会社 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メヂカルフレンド社 関連資料配布				
使用機器等					
成績評価の方法	看護過程記録提出				
備考					

授業科目名		担当講師名	対象学年
成人看護学実習Ⅰ		池田 恵子他	2 年～3 年次
授業形態	単位（時間）	実習場所	
実習	2（90）	県立大島病院	
到達目標	目的：障害の適応と社会復帰への援助を学ぶ 目標：1．回復期にある患者の特徴と、回復期における看護の特徴が分かる。 2．患者の健康障害と日常生活行動への影響が判断できる。 3．日常生活行動の自立への援助、教育的支援が実施できる。 4．患者がリハビリテーションに意欲的に取り組めるように援助できる。 5．障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聴くことができる。 6．社会復帰に向けて生活指導ができる。 7．行った看護を評価できる。		
実習概要	1．指示された事前学習をする。 2．受け持ち患者：回復期にありリハビリテーションが必要な患者 日常生活援助を必要とする患者 3．実習の進め方 1）ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 2）2週目にケースカンファレンスを実施 3）1～2名の患者を受け持つ		
履修の要件	成人看護学実習Ⅰでは成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること		
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院 系統看護学講座別巻Ⅱ リハビリテーション看護 他		
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価		
備考			

授業科目名		担当講師名	対象学年
成人看護学実習Ⅱ		池田 恵子他	2 年～3 年次
授業形態	単位（時間）	実習場所	
実習	2（90）	県立大島病院	
到達目標	目的：慢性の疾患または回復が望めない患者への援助を学ぶ 終末期にある患者への看護実践に必要な知識、技術、態度を学ぶ 目標：1．慢性期にある患者の特徴と、看護の特徴を理解する。 2．疾病が患者の日常生活に与える影響が理解できる。 3．セルフケアに向けて生活行動の自立への援助、教育的支援が実施できる。 4．障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聞くことができる。 5．疾病の自己コントロールができるような教育的支援ができる。 6．家族の訴えを受け止め、援助ができる。 7．社会資源を理解し、必要時継続看護が実施できる。 8．行った看護を評価できる。 9．終末期の特徴が理解できる。 10．患者の精神的、身体的苦痛を理解し援助を学ぶことができる。 11．終末期にある患者の家族の援助について学ぶことができる。		
実習概要	1．指示された事前学習をする。 2．受け持ち患者：慢性に経過している患者 援助を要するニーズの高い患者 予後不良、また終末期と予測される患者 3．実習の進め方 1）ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 2）2週目にケースカンファレンスを実施 3）1～2名の患者を受け持つ 4）終末期についてはカンファレンスや事例検討を中心に学習する		
履修の要件	成人看護学実習Ⅱでは成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること		
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院		
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価		
備考			

授業科目名	担当講師名	対象学年
成人看護学実習Ⅲ	池田 恵子他	2 年～3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所
実習	2 (90)	県立大島病院
到達目標	目的：周手術期と早期回復および生命維持に関する援助を学ぶ 終末期にある患者への看護実践に必要な知識、技術、態度を学ぶ 目標：1. 急性期における患者の身体的・精神的・社会的特徴が分かる。 2. 急性期における看護の特徴が理解できる。 3. 手術を受ける患者を理解し安全・安楽に手術を受けるための援助ができる。 4. 手術見学を通して、術後予測される身体的、精神的苦痛を理解できる。 5. 生命維持のための呼吸・循環管理、維持の現状が理解できる。 6. 早期回復のための術後患者の看護が理解でき実施できる。 7. 不安、苦痛を緩和するための援助の方法を学び、その一部を実施できる。 8. 社会復帰を目指す患者の援助ができる。 9. 家族への援助の必要性が理解できる。 10. 行った看護を評価できる。 11. 終末期の特徴が理解できる。 12. 患者の精神的、身体的苦痛を理解し援助を学ぶことができる。 13. 末期にある患者の家族の援助について学ぶことができる。	
実習概要	1. 指示された事前学習をする。 2. 受け持ち患者：手術を受ける患者または術後の患者 3. 実習の進め方 1) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 2) 2 週目にケースカンファレンスを実施 3) 1～2 名の患者を受け持つ 4) 終末期についてはカンファレンスや事例検討を中心に学習する	
履修の要件	成人看護学実習Ⅲでは成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること	
テキスト、教材、参考書	実習要項 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学 1～15 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論	
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価	
備考		

授業科目名	担当講師名	対象学年
老年看護学実習Ⅰ	長井 安代 他	2 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所
実習	2 (90)	介護老人保健施設虹の丘・虹の丘デイケア・在宅介護支援センター 介護老人福祉施設奄美佳南園・デイサービス・在宅介護支援センター 介護老人福祉施設めぐみの園・デイサービス・在宅介護支援センター 介護老人福祉施設住用の園・デイサービス・在宅介護支援センター 介護老人福祉施設芦穂の里・デイサービス・在宅介護支援センター
到達目標	目的：地域や施設で生活する老年者について理解し、対象の特性にあった援助の基礎的知識・技術・態度について学ぶ。 目標：1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を捉えることができる。 2. 老年者の基本的な生活行動および一日の過ごし方を把握できる。 3. 老年者との人間関係を深めることができる。 4. 老年者の健康障害・生活上の問題について理解し、日常生活援助ができる。 5. 老年者の生活環境およびソーシャルサポートシステムについて理解する。 6. 老年者の生き甲斐をふまえ、自己の老年観について考えることができる。	
実習概要	1. 提示された事前学習をする。 2. 実習の進め方 1) 老人施設実習では、実習1～2日目は受け持ち入所者を持たず、コミュニケーションをとりながら日常生活援助を中心に実習を行う。 2) 実習3日目から受け持ち入所者様を2名選定し、基礎情報および基本的欲求の状態、関連図を記入し、日々の実習計画を立て援助を展開していく。 3) 老人施設実習中に施設に隣接するデイケア・デイサービス、支援センターで参加型の実習を行う。 4) デイケア・デイサービス・支援センターの概要や利用者の特徴などの説明を受け、その役割を理解する。	
履修上の要件	老年看護学実習は、老年看護学Ⅰ、Ⅱを修得していること	
テキスト、教材、参考書、	実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 社会福祉 医学書院	
成績評価の方法	老年看護学実習Ⅰ評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価	
備考		

授業科目名		担当講師名	対象学年
老年看護学実習Ⅱ		長井 安代 他	2 年～ 3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (9 0)	大島郡医師会病院 国立療養所奄美和光園	
到達目標	目的：健康障害をもつ老年期の患者・家族を理解し、看護上の問題を計画 実施・評価することができる。 目標：1．老年期にある対象の健康障害の特性について理解し情報収集、 計画立案ができる。 2．老年期にある対象に適した態度を養うことができる。 3．老年期にある対象の QOL を高めるための援助を実施できる。 4．評価に基づいて看護計画を修正、変更できる。 5．継続看護の視点から、保健医療福祉チームの一員として看護の 役割が理解できる。 6．老年者の QOL 向上を目指した看護援助を通して、自己の老年 観を育むことができる。		
実習概要	1．提示された事前学習をする。 2．受け持ち患者：老年期にあり援助を要するニーズの高い患者 3．実習の進め方 1) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集を し、看護過程を展開する。 2) 2 週目にケースカンファレンスを実施 3) 一人の患者を受け持つ		
履修上の要件	老年看護学実習は、老年看護学Ⅰ、Ⅱを修得していること		
テキスト、教材、 参考書、	実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
成績評価の方法	老年看護学実習Ⅱ評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度 の総合評価		
備考			

授業科目名		担当講師名	対象学年
小児看護学実習		川畑 美佳子	2 年～ 3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (9 0)	県立大島病院 小児科病棟 小宿保育園、春日保育園、のぞみ園	
到達目標	目的： 小児各期の特徴を理解し、健康の保持・増進及び健康上の問題をもつ 個々の小児とその家族に対して必要な看護が実践できる基礎的知識 ・技術・態度を学ぶ。 目標： 1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解 できる。 2. 健康な小児、健康を害している小児の日常生活を理解し、成長・ 発達への援助方法を理解できる。 3. 小児の健康障害の特徴を把握し、対象に応じた看護過程の展開 ができる。 4. 健康障害や入院生活が小児と家族に及ぼす影響を理解できる。 5. 小児を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で小児看護の役割 を考察する。		
実習概要	1. 提示された事前学習をする。 2. 実習の進め方 1) 保育所実習 (3 日間) 健康な小児の成長・発達を理解し、望ましい保育について学ぶ。 2) 病棟実習 (2 週間) ・健康障害を持つ小児及び家族を理解し、家族を含めた援助を学ぶ。 ・患児を受け持ち必要な看護を、看護過程を展開させて行う。 ・ケースカンファレンスを行い、看護は適切であったかを検討する。 3) 療育施設 (2 日間) 障害児の成長・発達について理解を深め、保育者の関わりを学ぶ。		
履修上の要件	小児看護学実習を履修するには、小児看護学概論、Ⅰ～Ⅲを修得していること		
テキスト、教材、 参考書、	実習要項 系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学臨床各論 医学書院		
成績評価の方法	小児看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度 の総合評価		

備考			
授業科目名		担当講師名	対象学年
母性看護学実習			2 年～ 3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (9 0)	県立大島病院 産婦人科病棟 産婦人科外来	
到達目標	目的： 周産期における母子の特性を理解し、母性および新生児の看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。 目標： 1．妊娠・分娩・産褥および新生児の特徴と正常な経過が理解できる 2．産褥および新生児への援助を体験し母性看護技術の特殊性が理解できる 3．受け持ち褥婦・新生児の健康課題を理解し、褥婦・新生児への援助・指導のあり方を学ぶ 4．母性看護を通して自己の母性観（父性観）を深めることができる		
実習概要	1．提示された事前学習をする。 2．実習の進め方 1) 1～2 週目は正常な経過をたどる分娩・産褥期の対象および新生児を受け持つ。 ＊男子学生は女子学生とペアを組み褥婦と新生児を受け持つ。 褥婦のケアや観察で実施できない場合もあるので、女子学生と情報を、共有する。 2) 3 週目は、機能別実習として外来（半日）実習や妊娠期の技術を見学および体験する。 3) 外来実習は 1 日 1 名、半日実習とする 4) 分娩見学 ・産婦の許可をもらい 1 人 1 例実施する（女子のみ） ・男子学生は、産婦の許可をもらい帝王切開を見学する		
履修上の要件	母性看護学実習を履修するには、母性看護学Ⅰ～Ⅱを修得していること		
テキスト、教材、参考書、	実習要項 系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学（2）母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ周産期各論（医歯薬出版） 病気がみえる vol 10 第 3 版		
成績評価の方法	母性看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価		
備考			

授業科目名		担当講師名	対象学年
精神看護学実習		濱田 秀子	3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (90)	公益財団法人慈愛会 奄美病院	
到達目標	目的：精神に障害のある対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 目標：1. 精神科の治療環境・生活環境について理解できる。 2. 精神科医療の特徴が理解できる。 3. 対象の日常生活を観察し、精神障害が生活全般に与える影響について理解できる。 4. 精神に障害がある対象を理解できる。 5. 対象の日常生活行動を把握し、自立に向けて援助できる。 6. 対象が周囲の人々と交流が持てるよう援助する。 7. 行った援助を評価・振り返ることができる。 8. 対象との人間関係のあり方を通して自己の行動を振り返ることができる。		
実習概要	1. 課題を提示し、実習の事前学習を行う。 2. 実習内容 1)オリエンテーション 2)受け持ち患者看護 ・1名の患者を受け持ち、ヘンダーソンの理論に基づいて看護過程を展開する。 3)演習 ・プロセスレコードを活用し、対象との関わりを振り返る。 4)カンファレンス		
履修上の要件	精神看護学実習は、精神看護学概論、精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得していること		
テキスト、教材、参考書、	実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版 看護学生のための精神看護臨地実習 NOTE 中央法規		
成績評価の方法	精神看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価		

備考					
授業科目名	担当講師名		対象学年		
在宅看護概論	重 しほ子		2 年次		
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	地域看護 在宅看護 訪問看護 対象理解 生活の場 他職種との協働				
授業の目標及び期待される学習効果	・在宅看護を受ける対象者（療養者・家族）の理解する ・生活の場（地域）における看護の役割と機能を理解する ・在宅看護の背景（歴史・制度）より在宅看護の必要性和目的を理解する。				
授業の概要	I 在宅看護の歴史・概念・目的 1、在宅看護の歴史・必要とされる社会背景・在宅看護に関わる現状 2、在宅看護の概念：地域看護・在宅看護・訪問看護の役割と機能 3、対象者の権利と看護職の倫理 II 関連法律の概要 III ケアマネジメント IV 地域看護 1、地域看護の目的・機能・特徴 2、地域看護の機能する場と看護職の役割 地域・保健所・市町村保健センター・在宅・学校・その他 3、地域のケアシステム・関係職種の役割と機能 保健所・市町村・福祉施設・医療施設・訪問看護ステーション・在宅介護支援センター 4、社会資源の種類：ディサービス・ショートステイ・日常生活用具・その他 5、看護の継続・チームケア：他職種との連携・協働、施設と在宅を結ぶ看護（退院指導等） V 在宅看護の対象 1、在宅看護を必要としている人々：対象となる個人、ケアの単位としての家族 2、看護の対象の場と環境：衣食住環境、生活様式と価値観 3、社会資源活用へのニーズ 4、地域、家族の抱える問題 VI 訪問看護 1、訪問看護の目的・機能・特徴 2、訪問看護活動（サービスの内容、流れ等） 3、訪問看護の特徴（QOL、自立支援、自己決定、セルフケア等） 4、訪問看護が抱えている問題（法的問題、経済性、連携の問題他）				
履修上の要件					

テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院 在宅看護論 第4版 木下由美子 医歯薬出版株式会社 クイックガイド 在宅ケア 学研 国民衛生の動向				
使用機器等	ビデオ				
成績評価の方法	筆記試験				
授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論Ⅰ (状態別看護)		重 しほ子 益田 祐子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2年教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	対象となる疾患の症状・状態 看護の要点 在宅看護介入				
授業の目標及び 期待される学習効果	在宅で多くみられる症例について理解し、在宅における看護の実践がわかる。				
授業の概要	Ⅰ 在宅看護介入時期別の特徴 Ⅱ 在宅看護者の症状・状態別看護 1、寝たきり状態の看護 ①脳卒中 ②パーキンソン (症状・合併症予防・看護の実践・社会資源の活用) 2、認知症の看護 (症状・アセスメント・看護の実践(コミュニケーション、問題行動への 対処)・家族への支援、社会資源の活用) 3、難病の看護 ①ALS その他 (急性増悪の早期発見、自己決定支援、家族支援、チーム調整) 4、終末期看護 (観察・アセスメント・症状・疼痛コントロール・看護の実践・ 自己決定への支援・家族への支援) 5、感染症の看護 (看護の実践・感染予防対策・家族への看護) 6、生活自立支援が必要な人への看護 ・自立度のアセスメント ・人間関係の調整 ・社会資源の活用と指導				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院				

使用機器等	ビデオ
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論Ⅱ (在宅看護 技術)		重 しほ子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	2 年教室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	在宅看護の技術 日常生活の工夫 医療依存				
授業の目標及び 期待される学習効果	在宅における日常生活援助に必要な援助技術を学ぶ 在宅で行われる医療処置の方法を学ぶ 療養者やその家族の指導や相談方法を学ぶ				
授業の概要	I 在宅看護の基本技術 1、訪問に関する基本技術 2、相談と指導技術 II 在宅で求められる技術の応用 1、日常生活への援助技術 講義：清潔、休息と活動、環境調整、食事、排泄、 リハビリテーション等 演習：やってみよう訪問看護演習（日常生活援助） 訪問看護の場面を想定し、ロールプレイを行う ・訪問時の援助計画立案・日常生活用具の選択と工夫 ・対象の状態や生活様式に応じた看護の体験 ・訪問時の基本的態度（マナー） 事例：①気管切開の患者の洗髪 ②上肢拘縮の患者の手浴 ③下肢の拘縮のある患者のベッド上での足浴 2、在宅医療技術 在宅酸素療法、人工呼吸器療法、膀胱留置カテーテル法 経管栄養法・胃瘻・腸瘻栄養法、在宅褥瘡管理 服薬管理 3、在宅における感染予防について III 在宅におけるレクリエーション・遊びリテーション 1、集団に対して 2、個人に対して				

履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院
使用機器等	ビデオ
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論 Ⅲ (看護過程の展開)		根本 洋子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	3 年教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	対象に応じた看護展開				
授業の目標及び 期待される学習効果	対象者のニーズや多様な価値観を尊重した支援方法及び社会資源の活用方法を理解し、対象の状態に応じた在宅看護の展開方法を学ぶ。				
授業の概要	I 在宅における看護過程の視点 アセスメントの視点、計画立案の視点、評価の視点 II 看護過程の実際 1. 情報収集・全体像 2. アセスメント 3. 看護問題抽出 4. 計画立案 5. 事例による在宅看護過程を発表（グループごとに） 事例：ALS パーキンソン病 脳血管障害後遺症 等				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院				
使用機器等	ビデオ				

成績評価の方法	筆記試験、看護過程提出、レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習Ⅰ		長井 安代 学 内 教 員		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・学内実習	1 (30)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	複数の看護技術、コミュニケーション、安全、安楽、自立、観察				
授業の目標及び期待される学習効果	これまでの学習の中で修得した各看護学で学んだ知識、技術を統合し、対象の状態に応じた看護を原則に基づいて正確に実践する能力を養う目的とする。				
授業の概要	1. 事例について事前学習 ～上記内容について文献検索、グループワーク～ 2. 事例患者に実施すべきケア計画の立案 ～1名の患者に対して複数の援助が必要な状況について演習～ 例：検温、口腔ケア、点滴管理、移動、気管内吸引、口、鼻腔吸引 吸入、シーネ交換など 優先順位の判断、説明、調整、連絡、相談、協力依頼、記録 自己の実践能力の評価 3. 患者の状態に合った看護技術の習得 ～グループでの技術演習、振り返り・計画の修正～ 4. 看護技術の総合評価 ～実技試験～				
履修上の要件					

テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研
使用機器等	実習室物品
成績評価の方法	実技試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習Ⅱ		池田 恵子・大庭 梨香 学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習・学内実習	1 (45)	教室 実習室	前期・後期	不定期	不定期
授業のキーワード	倫理、コミュニケーション能力、メンバーシップ、リーダーシップ				
授業の目標及び 期待される学習効果	これまでの学習の中で修得した看護技術を統合し、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用していくことができるよう臨床実践能力の強化を目的とする。 複数受け持ち、多重課題、割り込み状況への対処、患者急変時の対応				
授業の概要	ステップⅠ．医療安全に基づいた援助 ヒューマンエラーと医療過誤、インシデントレポートの活用 感染管理、与薬に関する安全 ～上記内容について文献検索、グループワーク、発表～ ステップⅡ．2人以上の受け持ち 複数患者受け持ち多重課題に対し援助計画の立案・実施ができる 例：事例1) A氏に採血、B氏にバイタルサイン測定と寝衣交換 事例2) C氏に筋肉注射、D氏に更衣、移乗介助など 優先順位の判断、計画、協力、リーダーシップ、メンバーシップ 次の勤務者への引き継ぎ ステップⅢ．学内実習・実技試験 割り込み状況下での状況判断・優先度に応じた援助の実施ができる ～例：検査のため車いすを持って訪室したところ排泄の依頼があった。～ 状況判断、連絡、相談、説明、業務遂行				

履修上の要件	専門分野Ⅱの科目が終了している
テキスト、教材、 参考書	基礎看護技術、看護技術プラクティス、医療安全ワークブック 解剖生理学、病理学
使用機器等	実習室物品
成績評価の方法	筆記試験、実技試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護研究		平 玲子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・ 情報処理室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	ケーススタディとは、ケースレポートのまとめ方、文献検索、計画書の作成、研究論文の作成				
授業の目標及び 期待される学習効果	ケーススタディとして理論的思考の訓練 臨地実習の場で学生が実際にケースを受け持ち、すでに学習した専門知識や技術を応用・展開しながら、問題解決のプロセスをとおして思考方式や訓練を重ねていく。 1. 看護過程の客観的な検討 「アセスメント・看護診断・目標の設定・看護計画・実施・評価」といった看護過程の妥当性を、多様な角度から検討する 2. 論文作成を行うことができる 3. 論文発表を行うことで効果的な発表方法、論文評価の視点を理解できる				
授業の概要	1. ケーススタディとは 2. テーマの書き方 3. 計画書の内容と作成 4. ケースレポート（論文）の構成 ケーススタディの実際（演習） 1. 研究テーマの絞り込み 2. ケーススタディ計画書の作成 3. 情報収集、文献検索 4. 研究論文を書く。 5. 抄録の作成 6. ケーススタディの発表				

履修上の要件	1 年次：情報科学を履修、パソコン操作の基礎を学習していること。 看護研究の基礎を終了していること
テキスト、教材、 参考書	松本 孚：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方
使用機器等	パソコン、プロジェクター
成績評価の方法	出席状況、研究論文、発表態度
備考	論文発表用に抄録集を作成する。 卒業論文として取り組み、演習終了後に発表会で発表とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理（管理）		平 玲子		2 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	目標管理、ケアのマネジメント、情報管理、日本の医療制度・病院経営サービスの構造、医療安全の考え方				
授業の目標及び 期待される学習効果	現場の問題が何なのか。何かおかしいと思ったとき、それは全体の中でどのような位置づけにあるのか、システムの中で、組織の中で、自分の仕事はどのように機能しているのか、個としてだけでなく、全体とそのなかの個として考えていくことで問題解決ができ、看護の質をあげていくことができる。				
授業の概要	1. 目標管理 2. 業務遂行のマネジメント（ケアのマネジメント） 1) 業務管理 2) 物的資源管理 3) タイムマネジメント 4) ストレスマネジメント 3. 情報共有のしくみ 1) 情報とは 2) 診療情報の共有 3) 守秘義務 4. 日本の医療制度と病院経営 1) 医療提供体制 2) 診療報酬 3) 地域医療連携 5. 医療におけるサービスの構造 6. 医療安全の基本的考え方 演習 「医療事故の事例検討」				

履修上の条件	看護学概論 1 「看護サービスの管理」 を終講
テキスト、教材等	系統看護学講座 統合1 看護管理
使用機器等	パソコン、 プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理（国際）		平 玲子		2 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	（10）	教室	後期	不定期	不定期
授業のキーワード	グローバリゼーションと看護、国際看護、グローバルヘルス、国際保健の指標、国際協力、プライマリーヘルスケア、持続可能な開発目標 看護師不足				
授業の目標及び期待される学習効果	国際的視野を持つ 1) 世界の健康の不平等とその原因を理解する 2) 国境を越えて健康を守るために、どのような役割を果たすのかを理解する				
授業の概要	1. グローバリゼーションと看護 1) グローバリゼーションの定義 2) グローバリゼーションの要因 3) グローバリゼーションと健康 4) 国際看護への道 5) 多文化看護理論 2. グローバルヘルス 1) グローバルヘルスの概念 2) 国際保健の指標 3) 世界のH I V感染率 4) 国際社会とジェンダー 3. 国際協力 1) 政府開発援助 2) 国際連合 3) 保健医療分野の開発理念 4. 国際労働と看護師不足 1) E P A／F T A 2) 外国人看護師問題				

	3) 看護師不足
履修上の条件	看護学概論 1「国際化と看護」を終講
テキスト、教材等	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学
使用機器等	パソコン、プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理（災害）		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室・実習室	前期	不定期	不定期
授業のキーワード	災害医療、災害看護、被災者特性、トリアージ、PTSD、ASD CSCATTT、災害訓練				
授業の目標及び 期待される学習効果	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、更に、社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を学習する。				
授業の概要	1. 災害医療の基礎知識 2. 災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた災害看護 ① 急性期・亜急性期 ・被災病院における初動体制 ・救護所とトリアージ ② 亜急性期～慢性期・復興期 ・避難所における被災者の生活 3. 被災者特性に応じた災害看護 4. 災害とこころのケア ・ADSとPTSD ・救護者自身のこころのケア 5. 災害への備え 演習：大規模災害訓練参加 （模擬患者役）				

履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院
使用機器等	パソコン・プロジェクター 外傷メイクセット
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年
在宅看護論実習			3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (90)	奄美市名瀬総合支所健康増進課 奄美市住用総合支所保険福祉課 龍郷町役場保健福祉課 大和村役場保健福祉課 宇検村役場保健福祉課 虹の丘訪問看護ステーション 生協訪問看護ステーションあまみ	
到達目標	目的：個々の家族を含んだ対象の状況に応じた在宅看護を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶ ＜町村保健センター＞ 目的：市町村保健センターの実習を通して、地域社会の住民への保健サービスを学び、看護の役割を理解する 目標：1. 市町村保健センターの概要を理解し、地域社会の中で人々の健康管理がどのように行われているかを学ぶ 2. 地域社会における住民の健康管理、在宅ケアについて学ぶ 3. 看護活動の実際を通して、看護の意義がわかる 4. 看護師としての態度を学ぶことができる ＜訪問看護ステーション＞ 目的：地域で療養する人々やその家族を理解し、在宅看護における看護の機能と役割の実際について学ぶ 目標：1. 在宅で療養している人々やその家族を通して、療養している人々と家族に対する看護の実際を学ぶ 2. 在宅における保健医療チームについて学ぶ 3. 訪問看護活動を通して看護師の態度、姿勢について学ぶ		
実習概要	1. 提示された事前学習をする。 2. 実習の進め方 ＜市町村保健センター＞ 1 週目 1) 各事業に参加 2) 事業についての事前・事後レポート提出 ＜訪問看護ステーション＞ 2～3 週目 1) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。		

	2) 2週目にケースカンファレンスを実施 3) 受け持ち患者：在宅療養中にて援助を要するニーズの高い利用者 1人の利用者を受け持つ 受け持ち以外の利用者宅への訪問看護にも同行	
履修上の要件	在宅看護論実習は、在宅看護概論、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを修得していること	
テキスト、教材、参考書	実習要項 系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院	
成績評価の方法	在宅看護論実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価	
備考		
授業科目名		担当講師名
統合実習		対象学年
		学内教員
		3年次
授業形態	単位(時間)	実習場所
実習	2(90)	大島郡医師会病院 鹿児島県立大島病院
到達目標	目的：看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術態度を統合して看護実践力を身に付ける。 目標： 1. 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2. 就寝前の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解する。 3. 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 4. 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 5. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。	
実習概要	1. 提示された事前学習をする。 2. 実習の進め方 1) 実習内容 ①管理実習 1日リーダー業務見学実習 1日、複数患者を受け持つ看護師のシャドウイング 1日 (8:00～17:00) ②複数患者を受け持つ実習 (8:00～15:00) ③夜間実習 1日 (13:30～21:30) 2) 1グループ 5名～6名 教員は1名配置 夜間実習は教員は巡回指導 3) 複数受持ち以外はケアは原則として実施しない。 実習記録： 受け持ち患者の援助内容および行動計画、実習振り返り、学びについて記録	
履修上の要件	領域別実習はすべて履修していることが望ましい 統合演習ステップⅠ・Ⅱは履修していること	

テキスト、教材、 参考書、	実習要項 看護管理、医療安全ワークブック
成績評価の方法	出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	